



【討論】パンデミック条約とグローバリズム支配の転換

[桜 R6/5/24]

出席者

井上正康（大阪市立大学名誉教授）

池田としえ（東京都日野市議会議員）

林千勝（近現代史研究者・ノンフィクション作家）

原口一博（衆議院議員）

村上康文（東京理科大学名誉教授）

柳澤厚生（WCHJapan 代表）

司会：水島総

水島 皆さん、こんにちは。闘論！倒論！討論！2024、第 858 回目の討論となります。今回は大変大事ななかでの討論となります。もしかしたら日本が大きく変わっていく、あるいは取り戻していく、そういうきっかけとなる討論になるかもわかりません。私はなると信じておりますが、そういう意味では大事な討論、パンデミック条約とグローバリズム支配の転換と、世界的な大転換が今、起こりつつあるなか、そういうなかです、先頭に立って闘っておられる皆さんが今日、お集まりいただきました。大変私は敬意を、というか尊敬をですね、敬意を

表したいと思います。こういう人達がいるからこそ、日本が、本来の日本を取り戻す、流れをつくっていくんじゃないかと、そういうふうに見ております。

えーではさっそく、今日は特別編成になりますんで、ご出席の皆さんからご紹介したいと思います。まず、それこそ先頭にたっておられます、大阪市立大学名誉教授の井上正康さんです。よろしくお願ひします。

井上 礼

水島 ワールドカウンシルフォーヘルスジャパン代表の柳澤厚生さんです。よろしくお願ひします。

柳澤 礼

水島 そして東京理科大学名誉教授の村上康文さんです。よろしくお願ひします。

村上 皆さんよろしくお願ひします。

水島 そして、東京都日野市議会議員の池田としえさんです。よろしくお願ひします。

池田 はい、皆さんよろしくお願ひします。

水島 そして、衆議院議員の原口一博さんです。

原口 こんにちは。よろしくお願ひします。

水島 そして近現代史研究家・ノンフィクション作家の林千勝さんです。よろしくお願ひします。

林 よろしくお願ひいたします。

水島 今日はこういうかたちの皆さんでお送りいたしますけれど、まず構成だけお話しておきます。まず最初の 30 分間、林千勝さんに概略とかこの問題についてのお話をいただきます。その間に医師会の問題というかですね、その代表格

の人達のことも含めてお話いただきます。30分過ぎましたら討論に入りますけれど、約1時間討論やりましたら、申し訳ないんですけど、今日は本当に言いたいこととといいますか、言論の自由を行使していただくために、このYouTubeでは放送できません。すぐにバンされます。実は昨日、別の団体の同じ趣旨の、まだアップする前に、いわゆる載っけるというかやるだけで、バンされまして、チャンネル桜の別館は一週間アップロードができなくなりました。ということで、誠に悔しいし腹が立つし危機感を感じますけれど、1時間目だけは少し概略とかのお話をさせていただきたい。こっち（打つ真似）の問題とか少し、1時間後にニコニコ動画に移ります。そして自由にお話いただくと、こういう構成になります。よろしくお願ひします。こういう苦しい中で皆さんを先頭に日本の国民が4月13日立ち上がってくれました。何万人という人もいれば2万人という人もいれば、1万数千人という人もいますけれど、とにかく数え切れない数の人達が集まって、それも意思をもって、沖縄から北海道まで、皆さんが集まって声をあげてくれました。31日がまたその集大成の、第二弾、第三弾と続きますけれど、日比谷野音に集まって頂こうという話になっております。

ということで林さんは30分くらいで退出しなければならないんで、林さんからちょっとお話させていただきたいと思います。

林 はい。ありがとうございます。末席って気持ちいいですね（笑）。ありがとうございます。現状から国民運動の展望までお話できればと思います。まず、我々日本人に3発目の原爆が落とされようとしています。これはレプ〇〇〇ですが、第二次大東亜戦争に突入すると。これを阻止できるのは国民だけということです。なぜレプが第三弾の原爆かは、このあと、村上先生、井上先生のほうから詳しくご説明いただければと思います。一発目と2発目と違ひまして、それを作っているのは日本のメーカーということです。大丈夫ですね、これは。

水島 そこらへんは大丈夫です

林 明治製菓ファルマとVLPT ジャパンがこの3発目の原爆を製造している、開発していると言われております。VLPT ジャパンの代表の赤畑さんはホームページでいわゆる赤畑宣言というものを掲載してござりまして、危険性がない為非常に安全と。少量の接種で十分な抗体が作られる、自己増殖型の次世代 mRNA ○クチンと。現行に比べて10から100分の1程度の接種量となることから、短期間で日本人全員分、日本全人口分の製造が可能、準備できるというふうに言い切っておりますので、このへんも本当に安全なのかどうか、このあと村上先生、

井上先生からご講義頂ければと思います。

水島 と、主張しているわけですね。

林 と、主張しているわけですね。ホームページです。我々はですね、こういうふうに追い込まれているということですが、ご存知のようにパンデミック合意と国際保健規則の改定が行われますが、それとは無関係にですね、その成否とは無関係に粛々と新型インフルエンザ等対策政府行動計画の閣議決定で改革案が決まるということを新藤大臣がおっしゃっておりまして、一言でいうと驚くべきことかなと。プレバンデミック〇クチンという言葉、概念、製品が出てくると。それから柱は火葬場ですね、火葬場の整備拡充と。中国系資本がずいぶん握り出したといいますが、その事業拡張に協力するということでしょう。という、日本列島アウシュビッツ化の体系が提示されていると。その手法として、言論統制と事業者への命令というものを明記されているわけで、ファシズムと言いつけるものが政府によって準備されているとあっていいでしょう。すでに去年の秋から内閣感染症危機管理統括庁から始まって、レプリコン〇クチン製造承認、世界で日本だけ、国産 mRNA 接種開始、アメリカの CDC 東京事務所設置、エボラ出血熱の動物感染実験を東京都内、武蔵村山市の住宅地の真ん中で始めた、そしてご存知のように地方自治法改正の件ですね、これは後で池田先生の方からご解説ください。それだけではなくて、秋にいよいよレプリコンの接種開始と、米国のトランプ政権等は WHO を脱退していくでしょうけれど、日本はそういう議論はないということです。来年の春は武見さん主導で日本の CDC ですね、世界のトップレベルの JIHS が開設され、同じ頃ですね、世界のユニバーサルヘルスカバレッジ、世界の言ってみればプランデミックと皆保険体制の人材供給を東京で行うという学校が開設されるということで、ダボス会議で言っている趣旨、あるいは日本の計画等を総合すると、もっと早いかもしれませんが、来年の6月以降、疾病 X によるプランデミックが起こる可能性が高いとは言えると思います。

そしてですね、パンデミック合意と国際保健規則の改定、5月28日 WHO、A 委員会で実質議論されますが、今行われていることは、採択を延期するかあるいはカモフラージュしてですね、場合によっては決議案という形で迂回ルートですね、すべては後の枠組み、提案国会会議で決めるという迂回ルートの決議を行う。と同時に、盛んに買収と各国の脅迫が行われております。私の法に一部入っております。

加えてですね、議事、議決承認自体がルール無視のいかさまで行われるんではないかということも危惧されておりまして、これは 2 年前、国際保健規則改定が一部なされてしまいました。その時の議長中谷ひろき氏、厚生労働省の参与ですが、右側の法律顧問と一緒に定足数数えずと、慣習的に定足数を数えないことになっていると、まさにオレオレ詐欺的な言動で乗り切って、この会議で通してしまっただけですね。いくつかの国は猛烈に反対しましたが、結局シナリオどおり通してしまっただけです。中谷議長は委員会は成功裏に終わった、超嬉しいと発言しています。同旨のことを。危ないところだったが騙し通したぜ、これは本音だと思います。テドロス事務局長の中谷さんを見る目、これは画面から読み取っていただきたいのですが、こいつは〇〇（阿呆）かと。というような表情は読み取れます。この A 委員会について、もうすぐ 5 月 28 日ですが、これは 1 億 2 千万、あるいは全世界 80 億人で議事進行を監視しなければいけません。5 月 28 日日本時間で 16 時からですね、私の X でも生中継しますが、ぜひできたらこの番組でも適応に貼っていただけたらと思います。

そしてですね、今日一番問題はですね、これらの枠組みの後ろにですね、武見敬三氏がいます。彼が日本のアンソニー・ファウチであり、世界のアンソニー・ファウチであることが自身の言葉で宣言されている。2021 年 4 月国連・外務省、日本国際問題研究所共催で、経団連後援の公式の Web セミナーで公式に宣言しているんです。短いバージョンは見ていただいているんですが、今日は 8 分のバージョンを視聴者の皆様と見ていただきたいと思います。

動画 このユニバーサルヘルスカバレッジを目標として何を優先順位 1 位として取り組むべきかという観点から改めてこの UHC の財政という問題に焦点を当てることになる。(2017 年に) この UHC のハイレベル会合が 209 年に国連総会で開催されることが決定しておりましたので、2017 年 12 月に日本は政府主催で UHC フォーラムを開催、保健財政を中心とした優先順位決定に寄与することになります。この写真にもありますようにテドロス事務局長からジム・キム世銀総裁、アンソニー・レークユニセフ事務局長、セス・パークレー Gavi クチンライアンス事務局長、錚々たる面々が一堂に会し議論をしたわけでありませう。UHC の財政については財務省も非常に熱心に取り組みました。2018 年 IMF と世界銀行の春季会合の公式イベントで WHO と日本政府が共催し UHC 財務大臣会合を開催しました。これによって「UHC の財源を外国に依存せず時刻で確保し持続可能なしくみを確立すべき」という意見を定着させた。2019 年私は WHO の UHC 親善大使に任命され「健康への投資」の観点から複数関係者の連携をより促進する必要性を述べた。日本では「グローバル・ヘルスと人間の安全保障運営委員会」が官民連携で 2007 年に設立され、以来今日に至るまで多くの

関係各省、民間、医療回の連携を確実にし「アジア健康構想」「アジア医薬品・医療機器規制調和」「保健分野 ODA」といった大きな提言を政府に行い、官邸における「健康・医療戦略室」と連携、さらには自由民主党における政務調査会の「国際保健戦略特別委員会」と連携をし、「グローバル・ヘルスと人間の安全保障運営委員会」で採択された案件はそのまま「国際保健戦略特別委員会」でも採択され、政調審議会を通じて自民党の政策となるという政策決定のプロセスができあがっている。年4回「グローバル・ヘルスと人間の安全保障運営委員会」が開かれ意見交換や具体的な運用が行われる。実は主たる活動の資金源はビル&メリнда・ゲイツ財団、私としてはもう少し日本政府にも協力してほしい。コロナ禍で新たに「ミドルパワーの外交空間」が形成。トランプ政権のもとでG7が分裂、WHOの改革についてもアメリカの提言と独仏中心のEUの提言と2つに分裂。国際保健分野において3つのアプローチが浮上。第1・ガバナンス、第2・法律家的、第3・学際的。第1のガバナンスアプローチは「国際社会のガバナンスを強化して対応」、第2の法律家的アプローチは「強制措置（法）を作る必要性」、「たばこ規制枠組条約」と同じような形で①「国際保健規則」強化、②「パンデミックに対応する新たな国際条約」締結、いずれこうした法律家的アプローチがより重要な役割を担ってくる可能性は極めて高いだろう。第3の「学際的アプローチ」は「総合的政策の組み合わせ」。コロナ禍の長期化で感染の制御だけでなく自然科学と社会科学との連携及び保健医療と経済の政策的再統合が必要。「WHOの改革を通じた仕組み作り」①パンデミックの備えと対応に関する独立パネル、②世界危機モニタリング委員会、③国際保健規則（IHR）検証委員会、④独立監視諮問委員会をつくり、（WHOの改革の最終答申を2021年）5月にWHOの総会で発表予定になっている。ガバナンス（管理・支配）に関しては、国際機関や大きな民間団体が連携し、国も参加することで改革がより迅速にすすむことを企図し、（改革によってつくる）大きなネットワークの4本柱①診断②治療③ワクチン④保健システムを形成する。特にワクチンは国際社会の共通関心事になったことによって、ガバナンスの対象が途上国中心から先進国にも拡大しグローバル化したものとなり、グローバル・ガバナンスのためにCEPIとGaviが連携しCOVAXを設立された。我が国日本もこのCOVAX創設には最初から深く関わってきた。こうした時代状況のなか、ミドルパワーの外交空間が出現した。パンデミックに対応する新たな国際条約を締結する必要性を提唱するようになってきている。

林 はい、ありがとうございます。ご覧になって頂いたとおりで、重要な柱がいっぱい詰まっていますが、1つだけ補足するとですね、シビルソサエティの大きなプレイヤーとあってますけれど、これはゲイツ財団のことですね、主としてね。

それからここにある含意としてミドルパワーは日本を指しています、特に。日本から税金を引き出そうというのがここに込められた含意ですね。

それで私は一連の経緯でつくづく感じるのは、多くの命が失われると、情報が隠蔽されると、いかさまな説明がされると、このような状況と似ているものが最近あるなど気づきまして、それが JAL123 便の撃墜、撃墜というか墜落の件ですね。1985年8月12日。簡単にだけ今日触れますけれど、圧力隔壁ですね、圧力隔壁が破壊されて、空気が全部爆発的に内部の空気が全部外に出ってしまったのが原因と言われてますが、当時乗客が撮影した写真で、平穩そのもので気圧下がってないんですね。大変な惨状に全くなっていないということですから、私は少なくとも圧力隔壁説はでたらめだと思ってます。

それからよく言われているのが、海上自衛隊の標的機、オレンジエアーとボイスレコーダーでは一部言われていますが、それではないかと言われています。私は陰謀論はとらないですし、確実なひとしか述べないつもりですが、いっぱいおかしいことあるんですが、少なくともボイスレコーダー、フライトレコーダーが開示されていない、これはおかしい。この案件だけです。それから尾翼が沈んでいるのが見えているのに引き上げない、これも絶対におかしい。それから海上自衛隊の訓練記録も開示すれば、こういった世間を覆っている疑惑解消される訳ですから。

それ以外にもいっぱいあるんですが、今日は本題ではないんですが、隠蔽されると。政府を信頼できないと、多くの命に関わることに。安倍さんの暗殺事件もそうですけれど。そういう体質を打ち破るのに、私は国民政権樹立しかないと思っています。少なくとも、本件でいえば、WHOはこのままであれば脱退、厚生労働省はこのままであれば解体、政府行動計画は廃止ということしかないと思います。

そしてアメリカは闘ってますね。昨日、一昨日のニュースで大変驚いたのは、FRB 廃止法案というのが出ましてですね。

水島 大変なことですね。

林 陰謀論ではなくてですね、本当に切実にたどっていくと、株主の奥の院というのが例の一族なんです。これは陰謀論ではなくて事実なんです。そこに真正面から、今のところ共和党下院議員 21 人賛同ですけど、昔からアメリカは

半グローバルズムの潮流は強かったですけれど、この時期この法案を出すのは、正直、命がけだと思います。という闘いを日本でも行わなければならないと私は考えています。

そして国民運動ですね。今日はメインテーマだと思いますが、ご案内頂いたように、5月31日正午、いい未来、午後ですからゴーゴーと、厚労省前の日比谷野音にお集まりいただいて、なんとパレードデモは厚労省前から、明治製菓ファルマ付近と。西銀座通りを通して。

水島 相当くっついてるんです。

林 全国からお集まりいただけるということで感謝申し上げますし、どうかよろしく願いいたします。注意しなければいけないのは、私が強く感じるのは、まず、月末で平日で参加するには有給とらなければならない人も多くて、野音で定員3千人ですから、2~3回転すると恐らく6千人から9千人くらいじゃないかと私はみてます。非暴力・不服従を徹底すること、事故なきよう。入り込んできます、この段階になると、いろんな手法で妨害工作がすでに始まってますので、とにかく折り目正しさを東京だけでなく世界中に見ていただく、そういう体質日本人らしいパレードデモにしていきたいと思います。

我々は独立しなければいけません。4月28日も主権回復の日ではなく、主権がなくなったことが確認される日であります。米国からの独立はもちろんですが、それはトランプ政権の誕生によって促進される可能性が出てきますが、引き続き中国からの浸透を防ぐ、そこから独立を確保し続けると同時に、やはりグローバル勢力からの独立、これが柱になると思います。トランプ政権が誕生してもウォール街からの独立ということを我々は果たさないとならない。ジュネーブからの独立を果たさなければならぬということです。

我々は一応、民主主義体制ということになってますが、この民主主義、選挙制度や普通選挙、議会制民主主義というものは、明らかにある面、かなりの面、19世紀国際金融資本家によって独裁のためのツールとして普及されたという面はあります。陰謀論ではなくてですね。彼らはチャーチスト運動やビスマルクによる普選拡大も応援していました。

チャーチルが言うように、「民主主義は最悪の政治形態であると言える。他に試みられたあらゆる形態を除けば」と。この民主主義、普通選挙という枠組みのな

かで第一主義者はがんばろうとしていますけれど、これはなかなかしんどいことだと思いますね。本当に目覚めた国民が 1~2%しかいないといわれている日本で、彼らの民主主義の枠組みのなかで日本を取り戻すことは非常にしんどいということは認識しておく必要はあると思います。

国民運動ですが、先ほど社長が仰られたことですが、私なりの展望で恐縮ですが、ニューワールド側のオーターは世界の 80 億人、日本の 1 億 2 千万人を単なる大衆消費者として、奴隷ではなくね、ちょっと小金を持った大衆消費者として、大衆勤労者として、肉体労働の奴隷ではなくて、ホワイトカラー、ブルーカラーの大衆勤労者として、そして従順な世界市民として支配しているわけですね。何も知らない、知らせない。これを裏返すのが本当に一の国民運動のパワーになると思ひまして、従順な世界市民に対しては、集会デモ拡散、3 次 4 次と重ねて、永田町 50 万人が目指す姿だと私は思います。

消費者をこれを裏返せば不買運動ですね、それから愛国購買運動。私は今、小林製薬の商品いっぱい買っています。除菌クリーナーたくさんあって、トイレはピカピカです。もっと買おうと思っていますからね。それから大衆勤労者の裏返しは、働かない、ストです。ゼネストだと思いますね。私は武力を完全に否定しています。クーデターはない、銃も火炎瓶もない、しかしゼネスト、昭和 21 年に行われた、リベラル政権を打ち立てようとしてマッカーサーが中止命令を出しましたけれど、このゼネストがひとつのイメージできる 3 ステップめのことだと思います。そこに本当に国を守るという意識を共有できる集団の人々、すなわち自衛隊 OB、機動隊 OB、警察官 OB も何十万人と加わっていただくというイメージを抱くことはありうるのではないのでしょうか。そしてそれによって、私は政治は後追いだと思います。選挙は後追いだと思います。国民は国民政権を樹立し、アピールできるというか、付加価値をつけるとすれば、理論上、首相以外、閣僚半数未満は全員民間人が可能なんですね。首相は国会議員ということになってます。

私はこの席に招いていただいて、このメンバーの中に国民政権の主要メンバーはいらっしゃるんじゃないかというふうな直感をもっております。行政について言えば、この段階は国民運動ですから、大いに内部告発とサボタージュ、抵抗、軋轢が大きければ辞職、抵抗という段階にきていると思います。これはまさに幕末明治維新、脱藩といっしょですね。そういう段階にきていると思います。そうでなければ国民の命は守れない、彼らがいろいろな手段を使っていると申し上げましたが、5.31 日比谷野音の前日、木曜日、同時刻、非常に名前も似ている、

命を守る、国民運動ではなくてね、命を守る武道館 1 万人大会というのが、財界と医師会主導で開催されます。ワンヘルスの関係で獣医師会も参加しています。病院業界も参加していると。ここのテーマは、政府行動計画推進、言論統制推進、緊急事態条項推進、感染症プランデミック体制の推進、実質そういうことを意味しておりまして、大企業が、これは新日鉄の名誉会長、三浦さんですね、これは残念ながら杉良太郎さんと野口健さんですけど、大企業、医療業界もそうですけれど、そういった体制をつくるというのは、歴史の専門用語でファシズムといいます。ここに政党がびったりつくと、イタリアのファシスト党であり、ドイツのナチスということになります。その動きが行われております。これを阻止するのは生半可なことではない。

これはスロバキアの事件ですけど、画像耐えられますかね、ここにピストル写ってますね、こういうことも我々は想定しつつ、非暴力、非服従を貫くことが大事ではないでしょうか。

この国民運動を今年から来年、貫徹させる必要があると思います。今これをやらなければ日本がなくなると私は感じております。輝ける日本、独立ですね、これに向けて、今皆さんと一緒に、立ち上がろうではありませんか。250 万英霊の、私は笑顔が見たいと、これが私の気持ちのいたすところであります。

最後になりましたが、国民運動、プランデミックにあたりまして、ぜひ皆さん情報装備もしていただきたい。そのためには井上先生のご著書、非常にいいので、読んでいただきたいのと、それからロバート・ケネディ Jr が書いた、リアルアンソニー・ファウチ日本語版「人類を裏切った男」、これも世界的なバイブル的な位置づけで、この本が今意義があるのは、WCH の始まりが書かれているんですね。テスローリーさんのレジェンドになったストーリー書かれてまして、できたらその部分だけでも 5.31 の前に読んで頂ければなと思います。

ちょっと私駆け足になりましたが、出なきゃいけない都合で先に話してしましまして、失礼申し上げましたが、ありがとうございました。

水島 非常に大事な話を聞いたし、皆さんアーカイブも出ますから、何度もちょっと見ていただきたいと思いますね。はい。もうぼちぼち出なきゃいけませんね。どうも林千勝さんありがとうございました。

一同 ありがとうございました。

水島 概略とかいろいろな問題点も挙げていただいたと思うので、これを元にお話させていただきます。林さんはここで退席いたします。ということも踏まえてなんですけれど、皆さんのそれぞれのお立場にとってこの問題、どうなるかを聞いてみたいと思います。まず井上さんからお願いします。

井上 先ほど林先生から WHO とはどのようなものなのかと、それに対して日本がどういう立ち位置で仕事をしているかという最近の詳しいお話いただきました。実は私が医学部卒業したのは、ちょうど大阪万博の 1970 年でして、当時 WHO とか国連は世界の平和や健康を維持するのに重要な組織であるということで、非常に大きな信頼を寄せているのが 9 割 9 部の医学生の常識なんです。議長が何かおかしいなんていうことを言うと、あんた気が狂ったんじゃないか（笑）と言われるようなそんな雰囲気。その当時私も医学部卒業ばかりだったので、予防接種がいろいろな事故が起こってましたので、安全な予防接種をやるという仕事になるからやってみなさいと、半世紀前はそんな研究からスタートしました。当時、遺伝子の分子生物学的の技術が世界的にば一と進歩してきました、今だったら大腸菌とかかいこの細胞だとか使って病原体のタンパク質をあっという間に、それこそレプリコンじゃないですけど、1 ヶ月もあれば国民全員分のタンパク質を作ることができるということで、お注射学が確立したということで。感染症の研究にシフトしまして、この結果として活性酸素という、これを世界に広げたのは私のライフワークでした。

水島 これはすごいことでしたね。

井上 そういう意味では半世紀間、今問題になっているメインテーマから、それと闘う我々の免疫の仕組みと生体防御のことが全部の世界が問題視していることに関係していると。たまたま訳もわからず研究していたことが、そういうことに関係していたということなんです。その当時はうぶな大学院生だったものですから、将来的には WHO で活躍してアフリカとかで国際的なボランティア活動で研究したいなと思っていましたんですけど、半世紀たった今、林先生がお話された現状をみて愕然としました。なぜこんなことになったのかと。医者としてよくもこういうものを知らずに半世紀もきたなと非常に恥ずかしい思いもしておりますが、この背景に、あらゆるものの組織というのは予算というものが無いと仕事が動かないものですから、どういうお金で動いている組織なのかと。そうするとスポンサー、ステイクホルダーの意向が非常に反映されると。今の問題の根幹にかかっているんじゃないかと考えています。そんなところで、もう一回

世界の保健を守ってくれると、我々が半世紀信じてきた WHO が真なる仕事をしてくれるかどうか、そういうことにまだ期待はもっている訳ですけど、そうでなければ林先生が仰られたように、脱退するしかないような所にまで、世界の中で日本国民が悲惨な状態であることに気が付かずに追いやられていると。これが日本の現状じゃないかと考えております。

水島 林さんから今、出たように、スポンサーがゲイツ財団が中心になっているというね。我々は、WHO というのは公平で我々のためになると思ってましたよ。今スポンサーになっているのはゲイツ財団ということです。ビル・ゲイツというのはマイクロソフトを作った人というだけじゃなくて、ありとあらゆる全般にかかってくると、やっているという。そして、人間の命や健康に関わることまで、色々コントロールするような、そういうところまで、やろうとしていると、そういうことに気づいて立ち上がられたということですね。活性酸素の話は驚きました。話には聞いていましたけれど第一人者ということで。ここから入ってくる訳ですね、事実からね。そこが大事だと思います。はい。続けて柳澤さんお願いします。

柳澤 みなさんこんにちは。どうぞよろしく申し上げます。今、WHC、ジャパンの代表として動いています。そもそも WHC としいのは WHO のコンサルタントをやっていたテスローリー、産婦人科の一種ですけど、ものすごく秀でた論文も書いている方ですが、日本でも大村先生がノーベル賞をイベルメクチンを色々なデータ集めた時に、これが明らかにパンデミックが起きている時に有効であるという、大きなスタディを集めて出した。これを WHO のコンサルタントと一緒に論文を出しましょうと。すると WHO のコンサルタントのアンドリュー・ヒル先生が出しましょうと言ったら、なんとすぐに相談もなく論文を出したんです。それが今のパンデミック、死者がいる時に守るのはイベルメクチンがいいよと出すはずなのが、時期尚早という論文を出したんです。これについては実際にテスローリー先生とアンドリュー・ヒル先生のがあるんですけど、そのなかにユニットエイドという団体の力のある影響を受けて、意見を変えて論文を出したと。その時に彼の大学には数十億の基金がユニットエイドから払われている。それが論文発表の 10 日前なんですね。ユニットエイドはどういう組織かという、三千億円くらいの基金でいろいろな注射などについてやっていて、日本には流れても 10 億くらいしか出してないんです。ほとんどは実はビル & メリル・ゲイツ財団だと。結局はイベルメクチンをストップさせたいんだろうと想像しますがために世界中でイベルメクチンはそもそも動物用の薬だとか寄生虫用の薬で、使うべきではないと。日本でも医師会だ

とか色々な所で声をあげたんですけれど、結局は推奨しなかった。それはずっと続いているし、供給にも色々な邪魔が入ったと。それをみて、明らかに違う力がWHOに働いていると。私も調べてみると、色々な注射の団体だとか、ビル・メリル・ゲイツ財団だとか入っているWHO、これは私達の健康を守ると信じていました。私も井上先生と同様に。

井上 しんじられてきましたよね。

柳澤 信じていました。今は全然違いますね。これは新しいものを作るべきであるんだろうなという気持ちであります。

水島 非常に大事なご指摘だと思います。はい。ありがとうございます。では村上さんお願いします。

村上 はい、よろしくお願いします。私は大学院を修了してニューヨークに行っただんですよね。行き先はアルバンタンシュタイン医科大学で、井上先生がいらしたところと同じ所にいたんですが、そこで免疫学を勉強したんです。その後ウイルス学をやりまして、約8年くらいウイルスの勉強をやったんです。皆さんご存知ないかもしれないんですけど、相当ウイルス学をやってまして、8年位やった所でやれる所は全部終わったという生意気なんですけれど、面白い所は終わってしまったので、私はどうすれば癌は治るかというのが私の目標だったので、そのためにはヒトゲノムを調べないといけないということが分かりましたので、免疫学の勉強しながらヒューマンヒトゲノムの研究をしたんです。その話は2000年位になると終わるんですよ。

そこから抗体医学をメインにしようと思ひまして、私は27歳位から色々な抗体を作ってきたということになるんです。世界で一番多くの抗体を作った人間の一人ではないかと思っています。そういう視点で、ウイルスが登場した時に、抗体を誘導した方がいい場合と、しない方がいい場合があるんです。変異が多い場合はしない方がいいんです。抗体は一回しか誘導できないことが多くて、抗原原罪というんですが、一回抗体タイプを作っちゃうと、ヒトの抗体は同じ抗体ばかり生産するようになってっちゃうんです。ということなので、ウイルス応じて、どういいうウイルスにどういいう対策をした方がいいかということがあわけです。WHOはどうしても〇〇(ワクチン打つ真似)を優先すると。でもそうすると失敗することが結構多いわけです。ウイルスの性質を十分見た上で、どういいう感染のストラテジーがあるかやるべきなんですけど、どうも今回は闇雲に打ってしま

ったというのが問題あると思うんです。

闇雲にアミクロジン、抗体を誘導してしまうとウイルスが変異した時に、打った人の方が悪くなる、重症化するという現象が知られていまして、そういう論文がいっぱい出ていますから。マーズ、サーズウイルスに関して言うと、スパイクタンパク質で免疫するのが失敗したんですよね。同じようなウイルスですから、どういう戦略で今回のコロナのパンデミックに対する対策をするべきかということは早い時期からやらなければならなかったと思います。

もうひとつ、WHO なんですけど、前のインフルエンザのパンデミックの時に失敗してまして、2009年、2010年で新型インフルエンザが広まったという情報を流したんですが、あれは実は重症化しなかったんですよ。予想よりは重くならなかったんですが、これは大変なウイルスだと大騒ぎをして失敗したんです。もう一回の失敗は今回の失敗なんです。ということで2回失敗してますので、失敗した集団はひとまず反省するべきだと。どうして失敗したのか、どういう学者のことを聞いたから失敗したのかと反省した上で、対策を講ずるということをやってほしいと思っています。

日本なんですけど、お金の流れの話なんですけど、昔は医療疫学系の研究費は4本の流れがあったんです。厚労省、経産省、文科省、農水省まで医学関係の研究があったんです。それを相対前ですが、1本化してしまいました。厚労省の下のエーメッドに全部1本化しちゃいました。前までは大学の研究者が問題あった時に、話ができた訳です。厚労省がなくても、私は農水省の縄張りだから、農水省からやれば良いという話だったんですが、今は1本化してしまいましたから、厚労省の方針にノーといえない研究者が増えてしまったと。私の主張としては、もう一度研究費の流れを複線化するということが必要だと思います。それをやらないと永久にこういう失敗が続くと思うんです。

こういうようなことを思いながら日々暮らしてまして、そのあたりはもう一度研究費の流れを複線化すると。医療系、薬学科系の研究費を複線化しないと何度も失敗すると思います。このあたりは政治家の先生に言ってもらわないとと思っています。以上です。

水島 皆さんも初めて聞く人も多いと思いますけれど、こういう状態だということですよ。わかりやすく言うと、ハチに刺されて抗体ができると、2度刺されると今度はやばいという、そういうことに近いんですね。

村上 それと非常に近い話なんですけれど、ウイルスが変異するのが問題なんですよ。

水島 ああ、そうか。

村上 ウイルスが変異して行って、誘導されて、初めだけきくんですよね、Ige抗体効くんですよ。ウイルスが変異してしまうと効かなくなってしまうんですが、そうなった段階で変異型のアレを打っても、古い抗体しか誘導されない、マイナスだということです。

水島 だからそれをちゃんと一個ずつやってかないとダメなんですね。

村上 そういう情報を知ってる人達の委員会を作って、そういう人達の情報を厚労省も WHO も考えるということが必要だと思うんです。

水島 なるほどね。先程おっしゃっていたイベルメクチンの問題も含めて、そういう一本化というのは怖いですね。

村上 だから複線化しておくというのは非常に重要で、前は役所ごとに色々な研究者が分かれていまして、厚労省の縄張りの人達と、私は経産省の方に入ってきて、私は昔意見を申し上げたりしていて、厚労省がやっても経産省がやるんですよ。経産省が最初にやっても厚労省もやるんです。そういうことだと両方で争うんです。いいものにしようよ。

水島 わかりました。はい、ありがとうございます。では、池田さんお願いします。

池田 はい。私をご存知のとおり、日野市の市議会議員で今 6 期目になるんですけれど、もともとは子供 3 人専業主婦ということで、人生終わるかと思っていたんですが、なぜ私がこういった一連の流れの中でどのような形で、全く庶民の、テレビの向こうで見てくださっている方達、今回のことに気づかない代表みたいな私が、なぜ今回のことに気づいたのかということも少しお話ししたいと思います。今日はパンデミック合意とグローバル支配の転換ということで、グローバル支配の転換ということで、先程村上先生もおっしゃったように、一番私は 2009 年の 9 月、いっぱい質問したんです。その時はコンクリートから人へということで、自民党から民主党に政権が移った時、その 9 月に質問した。そ

それが、新型インフルエンザのパンデミックをどうやったらワクチンで超えるかということで、日野市議会の中でも 7.8 人全国自治体役人で 1 万人位やったと思うんです。その質問をした半年後に驚きなことに一面トップに、私が当時多くの議員とともに主張したことに 1126 億円、1 本も使われずに廃棄ということを経済記事で目にして、これはどえらいことが起こっているなと思ったんです。これがどのようにグローバル支配につながっていくかということ、どのように調べて論証していったかということの後半戦に譲るとして。

今、パンデミック条約ということで、WHO はパンデミック条約は先般まとまらなくて、中途半端な尻切れトンボで終わったということで、日本はどのような形で終わるかと言ったらとんでもなくて、すでに WHO や ISR の改定に足元をグローバルが固めるようなことを国会議員を使ってやっている訳です。それを地方自治法の改正ということで、これも日本は民主主義だ民主主義だといくら学校で教えるのが社会の授業の一番のポイントだといいいながら、ほとんど重要なことは閣議決定で、数名の人達で決めているような連続です。こここのところ。

その一つが、地方自治法改正ということで、これは、6 月をもって 3 の倍数月、3.6.9.12 という形で、地方自治体が国のやっていること、その昔は国のやっていることを期間事務委任ということで、国と地方の役割は主従関係だったんです。国が決めたことを地方自治はやればいんだと。それだけで給料は国の官僚より高い地方自治体もでてきたわけです。そのような中で、これではまずいと、2013 年に国と地方自治体は対等であるという所までこぎつけて、地域のことは地域の人がよく分かっているんだから、地域の人意見に従って政策転換して行ってというボトムアップしてきたという現状があるにもかかわらず、そんな実態をかなぐり捨てて、非常時と国が決めればありとあらゆることが国の言う通りに買ってにやることができて、しかもそれは法的義務も自治体は負うという、そこまで追い込まれた状態になっている。これは緊急事態条項、昔ナチスの全権移管法に匹敵する強権政治が行われている、その前哨戦として、法的補間作業という前に、すでにテレビや新聞で第一級の情報ソースを使って、前代未聞の動物実験をやっていないワクチン、ワクチンと称するもの、本当はワクチンではないんですけれど、これを多くの日本国民が打つなんて、戦前戦後の歴史も過去の歴史にもかつてない、異常な状態でもっていかれている。それで地方自治法の改正ですっかりもっていかれている状態が顕現されようとしている。これが 6 月なので、今は 5 月なので、もう迫っているようななかで、一刻も早く WHO の方向性、WHO を誰が掌握していて、全然公衆衛生を語る資格のない人がお金で牛耳って世界を制覇しようとしているというこの状況を、気がついた人はとに

かく動き出してほしい、声を出して何とかいちいの人にも知らせていく、そのような試みの一つとして、今月 31 日に、4 月にやった第二弾として、WHO を駆逐していこうじゃないかと。これは私達の命の白紙委任と同じですから。そこから脱却して、一刻も気がついた人を多く立ち上がらせていって、真の日本の自治、日本人の命を守って未来に向かっていこうという非常に重要な分岐点が、6 月の前日、5 月 31 日に大決起集会、前回は日曜日にやったんですけど、今回は平日金曜日ということもあるんですけど、土日お休みもらって、何とか…

水島 休んでもらって

池田 ええ、はい。このような気持ちで、私達も全員向かっていく所存でありますので、ぜひご覧になっている方々に関しましても、5 月 31 日どうしても来られない方は多くの方に声をかけて頂いて、今私達がどんな状態におかれているのか、気が付かないという恐ろしさに一刻も早く気がついて、ともに立ち上がって強く押し返していこうという気持ちで、今日も参加させて頂いております。そうですね、先生方。

一同 礼

水島 今言われた地域社会とか、そういうものにちょっと構造が似ていますね。世界各国、文化も伝統も気候も体質も違う、そういうものも一律にやっっていこうというね。WHO というか、そこに支配していこうという人達の流れが。日本が先頭に立たされているというね、実験場にされているという気がしてね。こういうことにも気がついて、地方自治の中からそれも止めないといけないですからね。

池田 そうです。これが何としても先に進ませてはいけないということで、私は全国有志婦人の会、今 170 名位が加盟して地方自治体の改正、地域の皆さん、まず第一に呑気にしている自治体議員の同僚に分かってもらいたいということで、どのような形で周知しているかという実態を勘案している所です。

水島 はい、ありがとうございます。そういう意味で、貴重な存在というか、国会議員としても何党とかそういうものではなく、この問題に先頭に立ってもらっています原口さん、皆さんのお話を聞いたうえで、少し長くなっても構いませんから、お話いただきたいと思います。

原口 水島社長、今日もありがとうございます。WCH、超党派議連の代表として、共同代表としてまいりました。一番新しいニュースで、昨日の夜、ワシントン DC でマハの議員、トランプさんの強力な支持者でミネソタ州のジョン・ロンソンら議員が中心となって、ライブストリームもしているんですけど、**THE SOVERREIGNTY SUMMIT**、主権サミットというものをやりました。世界の国会議員がズームや実際にここに行って参加して、EXIT WHO、WHO を抜けるんだと。先ほど林先生が行っていたように、手続きもでたらめ、この中身が多く、健康被害を被っているんですね。先ほど、武見氏が日本のたばこ条約と言っていましたね。たばこ条約の枠組みでというのは何を言っているかということ、まさに枠組み条約なんです。こういうことをやりますけれど、あとは事務局一任でとかやるじゃないですか、あのやり方です。

水島 あのやり方なんだ、なるほどね。

原口 あれをやると言っているんです。しかも強制力をもたせると。今 WHO は本来だったら 1 月までに事務局長を出さなきゃならなかったのが、結局、揉めて揉めて揉めて、まだ出てないんですよ。出てないからといって、安心できるかといったら全く逆で、この 6 月 27 日から始まる総会で決めちゃうと。そして、あとは日本で言う所の省令委任、政令委任をやるんだと。あとは任せて下さいと。自分達の決定でやりますよと。そんなのだったら主権が奪われてしまうから、というので昨日のサミットではイタリア、カナダ、色々な国から国会議員が、私も出ましたけれど、話をしてこんなのはダメだと。アメリカの上院議員の 49 人はバイデン氏に書簡を出しました。この書簡は、WHO に前のめりになるのはやめると、さもなければ貴方が持ってきたのを上下院で審議して条約に底上げするよということなんです。日本も、実は日本がやらされていると僕も思ったけど、実は日本がやらせているんですよ。

水島 それね、そうなんですよね。

原口 そうなんです。それがポイントなんです。だから麻生氏が、言っていました。この中心はどこかと。日本政府と IMF だと。WHO だと言っていました。だから僕らは根本から認識を変えなきゃいけないんです。僕らは、アメリカから何か言われたらハイハイハイと傀儡政権を見ているから、今回も傀儡がやっていると思っていたんです。そうじゃない。日本人を世界で一番治験しやすい国にする、つまりモルモットにするんだというのが、これなんです。

水島 そこなんだよね、これね。

原口 モルモットにする。日本人だけは絶対に逃さないぞというやり方。それが憲法の緊急事態条項であり、地方自治法であり、政府行動計画。だけど、これに気づいた方々が4月13日、大きなデモをやり、私のWCHの議連も70人を超えてるんです、党派を超えて。ただ1回めに来た所、2回めに来た所、圧力がかかった。ある党はもう出てこない。出てこないけれど裏で応援してくれる議員はいっぱいいるんですよ。

今日、ここにいる方々との関係を言っていていいですか。さっきテスローリーさんと言っていたけれど、テスローリーさんと出会うきっかけはファンだったんです。井上先生と村上先生は命の恩人なんです。普通に井上先生のお話を聞いていたら、ものすごいひどいバンにあった訳です。

水島 ああ、そうですね。

原口 叩きがすごいなあと思って(笑)。僕の癌細胞を調べていたんです。こういうところでなりますよ、ああそうなんだと聞いていたら、バンだった。英語で世界に向けて、何がオープンリソースだと。嘘言うなど。検閲じゃないかと出したら800万人が見ていた訳です。800万人が見ていた中に、WHOのテスローリーさんがいたんです。

水島 ああ、なるほどね。

原口 テスローリーさん始め何人もの医師が色々な優秀な医師を紹介してくれて、テスローリーさんは、3人の医師を紹介してくださって、その中のおひとりが柳澤先生です。

柳澤 そういうご縁ですね。

原口 柳澤さんを知ってテスローリーではないんです。逆なんです。イギリスからではないんです。そして栄養指導して頂いて命があるということです。

じゃあここからどうするかです。僕は国会議員ですから、岸田リセット法案を作っています。彼がやった地方自治法案も全部リセットする。WHOへの拠出もリセットする。例の注射の被害は、公式には2人しか死亡を認めてないんです。おかしいと思いませんか？

水島 おかしいと思います。

原口 その被害を認定する人達の委員リストを見ると、利益相反の疑いが極めて高い。これは 3 年前の北里研究所の大村智先生との画像です。チャンネル桜をご覧の皆様、日本に技術があるんだと、日本人が作ったものが日本人を救う、世界を救うものがあるんだということが、YouTube で名前を言えないんですけど、イのつく薬ですよ。僕らは 3 年半前から超党派の議連で日本の薬を、パンデミック、僕らはプランデミックだと思っているんですが、これに対して、使うんだという議連まで作っているんです。法律も日本版 EUR といってこれが使いやすくする、当時厚労省では 12 の推奨薬をやっていたんです。12 の中にイのつく薬は入ってたんです。

それがさっき、柳澤さんがおっしゃられた事情でどんどん落とされて、今、僕、イベなでも言わないでしょう。言ったらバンされるからです。とことん自由を奪ってきた。これで最後にしますけれど、これはこの間、第 7 回の WCH の皆さんきて頂いて、そこで、僕らは聞いたんですよ。これを人工物としてみているのかと。それとも自然発生のもものとみているのかと。全然違う。よその国は人工物だと思ってやっている。

水島 そうですね。

原口 だから、中国とアメリカで、武漢のはお前が作ったんじゃないか、いやお前が作ったんだとやりあっているのは、あれは人工物だからです。ところが日本では、あれは自然発生のものだと勝手に決めてしまって、そして被害をさらにさらに増やしている。日本で一番被害がでている訳です。国会議員で具合の悪くなった人って今、けっこう出てきているんです。7 回もあれを打って。私も公開しましたから、私に聞くんです。私は医師じゃないから先生方を紹介するんです。で、昨日会った方は、一人は脳腫瘍でした。一人は男性なんだけど乳がんでした。もう一人はすごいスポーツ選手なんだけど、走れなくなった。それが見えないのかということです。僕は安全保障をずっとやってきて、生物兵器をつくるって常識じゃないですか、世界の。その常識を最初からはずしてやっているんです、日本政府は。

水島 ないものとしてね。

原口 ないものとして、です。それおかしいでしょ。よその国では2.3年前からもう打ってないんです。ぜひご覧の皆様、ギリギリのところYouTubeで止めているけれど、真実を横に広げてほしい。そして水島社長がデモをやって頂いたおかげで、政府行動計画には19万筆ものファブリックコメントが来た訳です。あれはものすごく大きかったです。そして今度もまた、31日にデモをやる。4月13日は池田議員さんがマイクで炎の演説をやった訳です。

水島 あれは頑張りましたね。

原口 日本のメディアはスルーだったけれど、海外のメディアはむちゃくちゃ取りあげていて、これも(THE SOVERREIGNTY SUMMIT)それが刺激した部分が大いんです。僕らの行動が確実に実を結んでいる。ただ敵もさるもので、強引にやってきます。その時は抜けるしかないんです。抜けるしかない。

水島 本当はそれがいいんです

原口 ええ。以上です。頑張らしましょう。

水島 ありがとうございます。皆さんから色々伺ったんですけど、なるべくYouTubeで我々はやりたい、ニコニコは1時間後に切り替わりますけど、もう切り替わってるかもわかりませんが、まだですね、これは皆さん自制的にやっていたらいいんであれなんですけれど、私が一番気にしているのは、一連の動きというのは、緊急事態条項というのは他の国でもやるから一般の保守的な人達は、何かあったら緊急事態条項って必要じゃないかという人がいるんですよ。でもこれは井上先生がご指摘頂いたように、感染症まで入れちゃってるんですよね。これは我々のところはしっかり見ていかないとね。つまり保健衛生まで入れちゃってるから、それこそWHOの命令で何でも動くみたいな。それでWHOはどんな構成かといったらビル・ゲイツだというね。こういう構造はお話頂いたんで、こんなことを簡単に認めちゃだめだということをはっきり拒否しなければいけない。国際保健規則、こういうものも全部パッケージ、緊急事態、私は憲法改正なるものも全部パッケージやろうとしている。ドサクサにまぎれて全部やっちゃおうというね。恐ろしい岸田政権の流れはしっかり指摘しておかなければならない。ものすごい危険な状態、そこを我々は見なきゃいけない。単なるこれ(ワクチン打つ真似)だけの問題と思っちゃいけないから。日本人全体の命と健康、子供達の未来に関わる問題だという大変重要な問題が今、提起されているということなんで。

原口 憲法のことをひとつ

水島 はい、どうぞ。

原口 今月ウクライナのゼレンスキー大統領の任期が 20 日で切れました。けど彼は大統領を続けている。昨日、外務省と防衛省に、民主主義だとかおかしんじゃないかと言ったら、戒厳令下で憲法が停止すると。つまりこれを見ている保守の人達は、緊急事態条項は緊急事態では何かやらなきゃいけないから必要だろうと思っていたら大間違いで、憲法の緊急事態条項というのは憲法の停止条項なんです。ひとつを憲法に新たに加えて何か便利な、困った時に緊急の時に使うというものじゃなくて、憲法そのものが停止するんです。今だったら岸田さんがフォーエバー岸田、来年も再来年も岸田さんがやればずっと岸田さんだという話なんです。やり方がみんなにわからないように、オールセットでやっている。

水島 ドサクサに紛れてやっている。

原口 ドサクサに紛れて。緊急事態条項が憲法で必要だなんて言っているのは、グローバリスト、全体主義者、ファシストですよ。

池田 それともう一つ、地方自治法の改正で、もうひとつの隠された大きな肝というのが、公衆衛生以前に台湾有事に使われるんですよ。明らかにその方向性で、講演してくれということで西の法に行くことが多いんですけど、驚くような整備が色々な所でされています。そういった意味では、これをどのように扱われるかというのは、公衆衛生を片手に実は防衛に関する一元管理をされていくような状況が現出しているのが手に取るように分かる。緊急事態条項というのは、元々 1946 年金森徳次郎国務大臣が、いかに非常事態というものをつくられたような形で憲法が破壊されていく危惧というものを国会で発言されているんです。非常に危険な状態にあるということが、原口さんはご丁寧にご説明しているんですけど、国会議員が戦後の歴史、なぜこういう状態で私達がこんなことになっているかということをしつかりと目を向けていくべきだと思います。

治療薬に関しては、まだ 2020 年の 5 月、安倍元総理が 3 薬、イベを入れて提案していました。提案したり WHO に拠出金入れない、点検していかなければいけないと、トランプさんと同じような発言をしながら、あの末路をいつたりしているという情報が、クローズアップ現代とか特番で池田としえスペシャルとかやっちゃってもいいくらい情報が溢れているんですよ。精査したら。

水島 多分うちだけだと思いますけれど、安倍さんの暗殺もおっしゃった流れの中で、安倍内閣を成立させようと先頭で動いたけれど、2次内閣になって1年目を過ぎたら完全にグローバリズム政策に大転換していった訳です。種子法や種苗法や色々な移民法も含めて、だから我々は反対に回ったんですね。彼と知り合いだったから、勉強会も一緒にやったから彼は驚いたけれど、日本のためだったら批判しなきゃだめだった。で、やめたというか、実はやめさせられたというかね、そういう形の中で、本来の昔の関係に戻ろうと、対ロシア政策とかの問題を一回戻ろうとした気配があるんですよ、その矢先に暗殺されている。あれは単なるケネディ暗殺と同じように、単独犯としたらしいけれど、そうはいかんですよ。

これはメディアの中で私以外では本当に少なくなりました。みんな沈黙しています。先ほど林さんが、不可解なこと、日航ジャンボ機の御巢鷹山の問題を取り上げましたが、あれだって全然解決ついてないですよ。私も彼と同意見なんですけどね。膵臓がんの経済評論家の森永さんも、私も命あるかぎり伝えたいとここへ出て、研究してきたらしいので発表しましたけれど。それだけでも圧力が私の所にもかかっているね、でも言わないと、誰も黙っちゃうんですね。自民党の議員みんなそうですから。この間、自民党議員の長尾くんというのが来て、安倍の暗殺からみんなビビりまくってますと、ポロッと塘路番組で話してましたけどね。

この問題についてもまともに表立って自民党の中で反対だなんだって言える人達が本当にいなくなっちゃった。議員の地位だけじゃない状態が、永田町に蔓延していると。だから原口議員がいかに貴重な存在になっているかと。原口議員みたいなのが他にもゴロゴロいればいいんですけど、正直言うといないんですよ。

池田 先ほどおっしゃいました、ケネディのようなということですが、この問題点が自国だけの問題じゃなくて、世界中の問題になって、いつかは明らかにされるだろうという認識があるんですよ。インチキだって。安倍元首相に関しては、未だにそんなことすらない、山上さんが本来10日で終わる勾留期間が、殺してから何年たってます？ こんな異常なことも、誰も報道しなければ、これぞ闇に葬る、安倍さんが2020年ダイヤモンドプリンセスが2月に来て、4月にケネディと同じように今は第三次世界大戦中だと初めての国の代表ですよ。色々な発言が全然周知されてないけれど、イベルのことにしても、なぜWHOへの拠出金を停止しなければならぬのかということも、初期の頃から把握しておられ

た。そういった中であいつた事件が起こったということをもっと注視していかないと、私達は本当の意味での日本の自治というものを取り戻していくことができないと思うんです。

水島 チャンネル桜を見る人達、保守系の雑誌を見る人達ですよ、W i l l だ Hanada だ正論だ、何やってんだお前らと、本当の日本のことを考えた保守雑誌なら、言わなきゃならないけど、アメリカ、ビル・ゲイツさんに代表されるような、こういう人達の影響下で何も言えなくなっていると。ジャーナリズムの価値がなくなっていると。元々メディアというのは、そういう影響下にあると言われていきますけれど。そういう状態があるということだけは、話がずれてしまうとあれなんですけれど、そうであるということですよ。

原口さん、お聞きしたいんですけど、国会議員ですけど、お仲間も議員含めてですけど、本当に闘ってくれる人というのはどうですか。

原口 最低でも 30 人おりますよね。

水島 30 人ですか (笑)

原口 自民党でも。30 人でもそれはそれですごいことです。あそこに顔出して。

水島 顔出すだけでも大変なものね

原口 顔を出して、横に平沢さんがいますし、西田さんも来てくれたし、自民党でもそうやって来てくれる人いる訳ですよ。ただ全体主義政党はなかなか来にくいのかな。

池田 まだ PCR も進めていますからね。

水島 名前どんどん言って頂いてかまいませんからね。

原口 それで思ったのは、先日違う討論に呼んで頂いたのですが、防衛関係の人が僕にアクセスしてくれて、これは単にウイルスでやってしまうと失敗すると。だから生物兵器の危険性も入れた上でタスクフォースを作りたいという提案をして、安倍さんはそれを 1 回受けたんです。受けたけど、結局は厚労省に戻ってくるんです。厚労省でやってちゃダメなんです。

水島 そういうことだよね。

原口 こういう時は専門の方がやってくださって、人工物であるということは次に起こすって話ですからね。

水島 うちはウクライナ戦争始まった時に、うちは言ってますけれど、一番注目されたのは、ロシア国境沿いにあった、アメリカがやった生物兵器研究所で、これは生物兵器研究所だろうと言ったら、いやいや生物兵器やられた時防衛するために研究しているというけれど、防衛と攻撃って裏表で一体だろうと。アメリカの責任者が、研究者が防衛のために研究してただけだとちゃんと言っている。こういうごまかしをているんでね、安全保障の問題や、単なる個人的な命の問題じゃなくて、世界的な戦略としてこれが進められている。国防安全保障の問題でもあるということなんです。この話は大事な問題なので、井上先生、ちょっと。

井上 ウクライナの製鉄所の地下に生物兵器の工場があると。カナダの生物兵器の専門家が入っていて、住民と一緒に逃げようとして、ロシア人軍隊に捕まった話がありましたね。あの研究所はオバマとバイデンがまだ上院議員だった時に...

水島 じゃあだいぶ古いですね

井上 はい。9.11 のツインタワーの同時多発テロの直後に、中東で炭疽菌のテロがありましたね。あの時から病原体とワクチンというものがセットで国防的な問題できちっとやると。しかしそれをやるのはあまりにも危険だということで、国内ではやらせずに外でやるということで、それを決めたのがオバマ、バイデン上院議員の時代だったんです。

その結果として、中東とかアジアを含めて 30 数カ所以上、アメリカの指揮下にある生物兵器研究所がある訳です。その一部が武漢やウクライナに過ぎないと。科学から見た情報なんですけれど。さきほど、色々な情報で、WHO から命を守る国民運動と、WHO は今の状況では、武見さんから命を守ると。岸田政策から命を守る国民運動と。まさに WHO を国内に置きたいと、本気で自分達の子供や孫の命を考えないといけないところまで日本はずり落ちてきていると。国民以上の政権はできないと名言ございますが、これは日本の民族そのものがここまで劣化した状態に置かれたと。GHQ 以来の、私が生まれた時から、ずっと

続いてきた教育の結果がここにあると。そういう意味では原口さんは同僚を見ていて歯がゆい思いをなさると思いますが、この思いをきちんとリセットするには国民しかないんです。

そういう意味では、こういう脆弱なメディアを通じてでも、国民が自分達の家族のために立ち上がらなければ、行き着く所までやられてしまうと。そういう状況にあると、日本人がどこまで気がついてくれるかというのが、今回の大きな問題。ずーっと続いていたんですけれど、3年間のパンデミックの注射のことで、私のような政治オンチの者が気づくきっかけになったと。一気にそれが国民運動として、理解できるような状況にまでひどい状況が進んでますからね。

先ほど感染症が入っているという話がありましたが、海外ではそれが入ってないんです。

水島 それが大事ですよ

井上 今回4年間であったことはPCRという、これは間違いに何とかじゃないですけど、あれを使えばいつでもどこでも何度でもパンデミック宣言ができる立証された訳ですよ。それを使えばいつでも起こしたい状況を使えると。着々と整いつつあるという状況ですね。それに対してどういう言論人、どういうメディア、医師を含めて命を守る闘いだきるかというのが、まずは5月31日日比谷野音の国民運動につながるだろうと思っています。

水島 柳澤さん、この一連で、お話しいただきたいんですが、世界的な問題だし、我々後ろからついていったと思ったら先頭きってお先棒担いでトップランナーみたいなこと始めていると。はっきりいうと、これは人類に対する犯罪ですよ。

柳澤 僕も当初は、日本はやらされているなという感があったんですけど、今は確信犯的だと思っています。まさに国家の自治権にしろ、何よりも私達が健康になる権利があるものを冒している。そしてそれを選ぶ選択肢もコントロールしようとしている。本来は、私達は健康を自分で選んで自分で責任をもつところですよ。では、国の言うとおりにして国が責任をとってくれるかといったら、ご存知のとおり全然とってくれない。この仕組みをとっている限り、日本はこのままでは潰れてしまう。私は基本的に専門的には栄養療法、統合医療とか伝統医療なんですけど、どんどん押し潰されていく。実は私も国際学会の会長を昨年まで10年間やっていたんですけど、今私達仲間での危機は、自分達がやってきた

ことが否定されてしまう、もっと自由な治療を、というところで、このままいくと、医学の世界が画一的に固まってしまうだろうと。このままでやっていると、日本も世界も健康が管理されているという、とてつもない近未来の世界を、悪い意味で描いてしまうなと思うんです。

水島 まだ出てないですが、これによって人口抑制をしようとかね、そういうことまで…。それぞれの大事な個々の人生まで、健康とか公衆衛生の面まで遮断しようとしているとか、誠に理不尽なね。どこに自由と民主主義があるんだという気がするんですよね。村上さんどうですか。

村上 2020年に遡るんですけど、400人位に協力してもらって、どういう抗体をもっているか調べたんですよ。私が前からしきりに思っていたのは、東アジアの人達は、どうやら感染する人も少ないし、亡くなる人も圧倒的に少なかったですよ。我々が400人から抗体を調べてみたところ、8割くらいが今のコロナウイルスに反応する抗体をもっていたんです。その話を政府の上層部に話したら、すぐ発表してくれということになって、発表会を開いたんです。あの頃まではよかったんです。あのへんまでは日本は何もしなくていいと路線できていたのが、ある時期から急にmRNAのあれを打てという方向になっていって、そこで安倍さんも病気で辞められたということで、そこらへんに大きなターニングポイントがあったんじゃないかと私は思っています。

あのへんまでは情報がしっかりと流通しておりましたし、我々日本人は何もしなくても大丈夫だと。皆さん免疫をもっているから何もしなくていいと。若い人達から早めに感染するのがいいんだと、話を政府の上層部に言っていたんですけど、その後全く話が通じなくなった。

水島 我々もそう思っていましたよね。なぜ日本人は世界中が流行っている時にそうだったのかというと、そういう話があったんですよね。

村上 皆さんちゃんと免疫を持っていたので、多分、何もしなくても変なものを打たなくても、感染者も増えなかったし重症者も増えなかったはずなんです。結果的にみると、打ち始めて急に増えたんです。

水島 具体的な話をさせていただく前に、ちょっと皆さんからひとつずついただきたいんですが、池田さん、いいですか。

池田 今私達がやらなければいけないことに関しては、自覚しておりますので、あとはどうやって多くの皆さんを、波動というか揺り動かしていきながら、顔の見える人というよりも、それを聞いている圧倒的大多数の方々こそ立ち上がって、多くの方に伝えていただく、波動が波動を呼び、という形で、急速な拡大をいただくというのが一番求められているということだと思います。戦後私達 78 年間、海に囲まれたなかで幸せに守られて今日までできておりましたよね、そういうなかで、お湯に浸かり続けていて、寒いのか暑いのか分からない状況のなかについて、もう少したちと急にぐっと冷やされたりぐっと暑くなったりという状況にすんでのところに来ている、これに和達は一刻も早く気がついて、同志として立ち上がっていく、それにつきると思います。心ひとつにして進んでいきたいと思っています。

水島 今言ったことは本当に大事なことで、我々も運動やっているんですけど、いつも言うのは、私達は路上の石ころみたいに目立たないかもしれないけれど、それを磨いて打つと火花が出ますと、それを燃やすと山々を燃え尽くすエネルギーに変えることができる。だから自分達がダイヤモンドじゃないと思わないで、石ころでも磨いてちゃんとやって、火を打ち合いましょうと。火花出しましょうと。それが燎原に広がっていくというね。そういうイメージを絵はなしすねんで、絶対あきらめないということだと思います。それでは原口さん、どうぞ。

原口 マリアン・マデルードという免疫学の博士が 6 月 1 日にスパイク mRNA のやつ、遺伝子治療製品のやつをすべて禁止するという勧告を用意しているんです。つまり長期にわたって何が起きるか分からないと、この先生方がずっと言われてきたこと、それを日本人でやっているというのが 1 つ。

もう 1 つ、心理的に言うと、100 年前の史上最悪のインフルエンザといわれていたスペイン風邪の時、あの時とよく似ているんですよ。それは何かというと、人々の恐怖を利用するんですね。心理的にいうと、見えないものが一番怖いので、可視化しようとするんです。すると全体主権になってくる。このトリックに入っているということをまず僕らは認識しないといけない。

僕は保守の再生がぜったい必要だと思っているんです。昨日故郷の鹿児島テレビに出たら、薩摩だから明治維新は明治 6 年に終わったと、私達も江藤新平を首切られてそこで終わったと思っているんです。その後、左派官僚が支配していくんです。今、保守の論壇を見ていて、いいリトマス試験紙だなと思って

いるのは、極左のグローバリストの傀儡を拝米主義、それをそのまま垂れ流している。この人達は保守だといっていたけれど、実は極左グローバリストと親和性が非常に高い。長いものに巻かれればいいという保守の顔をした傀儡と、水島社長のような本当の保守と、これを区別する。僕ら国会議員もそうです。国会議員もよその国にむちゃくちゃ金だしたり。よその国のろくでもないガラクタ企業に莫大な金をだす、これは保守といわないでしょう。だからそういう区別をつけねチャンスだし、石の火花の話をされたけれど、今、バンバン散ってますよ。

この間、池田としえ議員さんとたらという佐賀の街に呼ばれて行ったんですよ。人口 800 万人の街なのに、死亡認定が 2 人もいます。若い町会議員さんが僕らを呼んで、朝から晩まですごい長い会議したんです。

池田 そうなんです。朝から夕方まで、小さい町でしたけどけっこう大勢ね...

原口 何百人と来て、自分達が黙っていたら自分達の大切な家族、心筋炎の方もおられたし、色々な方がおられて、でも僕らがそこに行くことによって、場ができるんです。各地でね。農民一揆じゃないけれど、一揆じゃないけれど、一揆が起きてますよ。ぜひチャンネル桜を中心とした本当の保守をね。池田さんはそれで自民党を追い出されたんでしょう。

池田 そうなんです。正しいことをやって追い出され、恨まれ問題だなんていって、そんなことを平気でかばいあっているような...

原口 恨まれ議員って言って追い出されているでしょう。

池田 全くそうなんです、地元 21 区。

水島 腹たつねえ。

原口 よくやるよねえ。

池田 こんな世の中だからこんなことが起きるんです。何としてもただしていけないと、私達を今日まで育てて下さり、苦しい時に二十歳そこらで命を散らして次の世代をとった人達のお陰でこうして私達はいるわけなので、本当に申し訳なさすぎる。しっかりここで私達が白黒つけていけないと。

原口 悪貨は良貨を駆逐しているんだから。

池田 本当に負けちゃいられませんよ。

水島 本当にそう思いますね。我々も提案しているのは、自民党だなんだいっても現状には対応できなくなっているというね。正直、現状的な対応はできなくなっている。現状的な対応、政策的な対応、戦略型の対応ができない。裏金問題。この話してもしょうがないので言いませんけれど、これも岸田総理が総理になってからパーティやって1億5千万円以上集めたと、岸田総理が企業に来てくれよといったら、それは皆行かざるを得ないでしょう。1億5千万円集めておいて、大したのじゃないのを離党させたりしてごまかそうとしている。絶対こんなことはいかんというのは皆さん気づき始めているけれど、形として表すのは、今回、自分の命を守るために立ち上がっていただきたいということです。

私達は、こういう運動を始めていただいたなかで、右とか左とか思想、イデオロギーの違いを乗り越えて、少なくとも国民の命は守る、反グローバリズムとか反パンデミック合意とか、一致できるものはあると思う。その流れを作っていく。

小選挙区だと自民党と野党という構造になっているけれど、もう一個どんとやったらどうだという。ひとつの何とか協議会とか評議会とか名前にして、政党を皆で起こして、小選挙区に皆を立候補させるということをやって、国民という流れを作らなきゃならないと思っている。

もうひとつ言いたいのは、民主主義の力を発揮するのは岸田を落とすんですよ。これを言いたいと思います。岸田を落とす。現職の総理を皆よってたかって集まって（ぶつ真似）。

井上 その一番の原動力は、国民がシェアしようとする、今回8割が頻回接種してしまったと。自分のことと実感できることは、自分の家族や知ってる仲のいい人達はもうむちゃくちゃに体調がおかしくなって、火葬場が2週間待ちと、しかも来年はもっと増やそうという計画、そういう状況の中にあると、この思いだけは右も左も関係ないと。あらゆる階層、年齢関係なく、国民が共有できる気持ちだというね。これこそが国民運動の起爆剤になることなので、そのためにも注射でおかしくなったということを医者がかちんと国民に伝えていくというミッションがあると思います。ぜひそういうことを共有して国民運動を広げたいと思います。

水島 これでは YouTube は終わらせていただきますけれど、31 日日比谷に皆さん集まって下さい。有給休暇取っても何でもぜひ来ていただきたいと。

井上 子連れで来ていただきたいですね。いい教育になると思います。

水島 そうですね。これはきちんとした品格あるデモで、そんな乱暴なこととか全くありませんので。ということでぜひ集まっていただきたいということでお願いします。ここで YouTube は終わり、続きはニコニコ動画の方に移動していただけますか。そしたら、これから、名前も何もバンバン言いたい放題の場所になりますから。ニコニコ動画の法に移動して下さい。

CM

後半

水島 この枠はもう言いたい放題していただいて、制限ございませんので、個人の名誉毀損以外は大丈夫ですので、ぜひ発言していただきたいと思います。

あらためまして、日本の危機を先頭に立って運動や活動をしていただいている皆さんです。イベルメクチンとかワクチンとか、ワクチン注射打つとまずいとか、いろいろなことをいうとあつという間に YouTube の場合はバンされますので、バンどころではなくてアカウント停止、素材も全部抹殺されますので、ここは自由にしてください。

井上 社長はワクチンとおっしゃいましたが、これはワクチンではございません。

水島 ごめんなさい。はい、そうですね。

井上 遺伝子で病原体のタンパクを体内で作らせるということ自体、根本的な間違いなんですよね。作っている細胞は全部自分の免疫で殺される運命にあると。しかもナノ粒子でポリエチレングリコールほコーティングしたもので、37兆個の細胞すべてに入るようなデザインなんです。全身の細胞が自己免疫疾患を起こすと。人類誰も経験したことがないことが起こっています。

水島 それも人工的についでいうことですね。

井上 はい。そういう状況のなかで毎年ワクチンと称するものが打たれ始めてから、10万人以上が超過死亡数としてでていると。そして過去3年間毎年20万人赤ちゃんが生まれてないんです。毎年100万人生まれていたのが、80万人以下になってます。目に見える死者が何十万人もいるし、見えない死者が60万人以上いるわけです。私が生まれた広島昭和20年の、ピカドンが毎年落ちているようなことが今起きているようなものなんです。

これは打った1週間後に起きたら、誰もワクチンのせいだとは思わない、医者も思わない。ここのところが証拠を残さない毒薬という別名があるんです。

水島 なるほどねー

井上 しかもそれをワクチンでないものをワクチンと詐称したところに、知能犯の、あっぱれな悪知恵がありまして。昨日獲得試験で打たせたウイルス、これはアルファ、ベータ、ガンマと通常型のウイルス合戦を起こすものですから、けっこうタチの悪い風邪だったんですけど、トータルでみるとそれほど怖くないと。打たれるワクチンの方が圧倒的に凶器になっていると。こういう構造が世界で分かっている訳です。そういうことで海外では2年前の春にほとんど打たなくなっていると。未だに7回以上も打たされているのは唯一日本人だけなんです。そういう意味では日本人選別計画のような、計画したかどうかは別にして、結果としてそういう着地点に日本民族が転がり落ちていつている。

これに対して自分達の子供や家族がなぶりものにされると座して見続ける民族として、我々は生きるのか。あるいは立ち上がって家族を守るのか。これの行動を移すのが5月31日の国民運動を呼びかけた一番重要なポイントです。ぜひ、有給休暇なんてことは言わずに、来られない人は風邪を引いてでも休んで、しかも子連れで来ると。そうすると今後恐らく何十年も生きていく可能性のあるお子さんにとって、パレード参加が生きるためにどういうものなのかということ勉強するまたとないチャンスになると思います。国民運動であり、国民の教育を兼ねて、ぜひ5月31日日比谷野音に結集して、日本でどういうことが起きているか学ぶ機会にして頂きたいと思います。

水島 皆さん井上先生のお話は関心しておられるんですけど、ワクチンじゃない、自己免疫不全にさせるあたりをちょっともう一回言ってくれますか。

井上 そもそも BCG とか言われているワクチンは、病原体のタンパクを皮下としか粘膜にやって、そこに免疫の記憶がシャープにできるものですから、記憶したらそれで終わるものなんです。ところが遺伝子を注入して、自分の細胞に作らせると、作っている細胞は感染した細胞みなされて全部殺される運命にある訳です。それもポリエチレングリコールをコーティングした細胞は、全身の、骨髄から卵巣から精巣から脳から心臓、入らないところはないということは、厚労省のデータからわかっているんです。

そういう意味では、作っている抗体を上げるという説明で打たされたものが、実は抗体をつくる自然のスパイクを作った細胞は全部死んでいく運命にあるんだと。こんなものをワクチンだと詐称することによって、初めてロクにチェックもせずに使わせることに成功したと。これが今回の遺伝子ワクチンと呼ばれるものなんです。だからこれはワクチンではありません。

水島 免疫機能絶滅むすびというか、

井上 自己免疫、自分で自分を殺す、しかも全身の不具合を起こすようなものが、遺伝子ワクチンと呼ばれているものです。この間まで打たれていた mRNA ワクチンも、今度は自己増殖能をもつレプリコンも全く同じことが起こります。レプリコンと従来型の違いは、レプリコンの場合はその病原体を作る遺伝子が体内で自己増殖するという、もっとタチが悪いはずなんです。そういうもの日本人にだけ特化して許可したと。これが林先生が第三の原爆だとおっしゃっている理由だと思います。

これが本当にそういうことが起こるかどうか、まだ分かりません。わかるのは日本人が猿として治験をした結果、初めて分かってくる。

水島 日本人が死んだら分かるという、そういう話になってくる訳ですね。

井上 ワクチンとしては安全性が担保できてないものを打たすということは、医学常識ではあり得ないということです。厚労省が主導してやっているということで、WHO 脱退と、厚労省から命を守るという運動、岸田政権から命を守ると、こういうことを日本国民は突きつけられているんだと、このことを理解して大人は立ち上がらなければ、子供を含めて、やがて日本はなくなってしまうというのが、医学からみた我々の立ち位置です。

水島 我々ジャーナリズムの世界では、キャッチコピーというか、日本人絶滅、

医学は進んでいるというね、皆よく分かるというね。現実にもそういう実験をされているんですよ。こうやったら死ぬという。

井上 現実としてこの過去 3 年間、打ち出してからものすごい数死んでいるん訳です。火葬場が 2 週間待ちなんて誰も不思議に思わない、これが我々日本民族の実力なんですよ。そういう状況を、いい年をした大人が気が付かない限りは自分達の子供が全部その犠牲になると、そういうフェーズですね。

水島 超過死亡、これ 10 万人以上、毎年普通に死んでいく人達がいるんだけど、急にこれやったら、10 万人以上、増えたということです。つまり、ワクチンとっておきますけど、注射打ったおかげで、こうなっている可能性が非常に高い訳ですね。

井上 これは日本だけでなく海外でもいっぱい起こっています。去年の 8 月までに mRNA ワクチンと後遺症と、サイドエフェクトの 2 つのキーワード入れると、何千本以上の論文が発表されているんです。1 本の論文に何百人、何千人もマスタディの被害者がいるので、ものすごい数の方が亡くなっています。これが世界で起こっている現実なんですよ。

水島 超過死亡という、何か他の病気で亡くなったみたいにみえるけれど、実の原因は、そこの免疫機能を全部ダメにさせるようなワクチンと称するものという訳なんですよ。それともう一つ、赤ちゃんが生まれなくなっているということをもう少しお願いします。

井上 4 年前までは赤ちゃんは 100 万人生まれていて、130 万人死んでいて、これで少しずつ人口減少していたんですが、ワクチンと称するものを打たれ始めてから一気に 20 万人、赤ちゃんの出産が減っています。去年は 25 万人減っているんです。高齢者や打った人で亡くなっているように見える死者と、見えないう死者を合わせると、原爆級の死者が、我々が気が付かずに亡くなっているんだと。あっという間に江戸時代の人口に転がり落ちつつあります。

水島 数字聞くと皆さんお分かりになると思いますけれどね。柳澤さん、どうぞ。

柳澤 私が 2 つお話ししたいのは、コロナのワクチン、遺伝子治療薬、これはインフルエンザのワクチンと比較したというデータがあって、それを元に僕らは署名運動をしています。

今年からコロナのワクチンは65歳以上の、定期接種になったんです。いやちょっと待てよという話で、65歳以上にインフルエンザのワクチンは過去に1億8千万回打って、死んだ人4人なんです。

水島 1億8千万回やって4人と。

柳澤 一人でダブル、トリプル打ってる方もいる訳ですね。ところが、新型インフルエンザ、65歳以上に1億9千万回、ほぼ同じ数打って、5月21日、国が認定したのが434人。4人対434人。同じ人数で100倍以上の違いがあると。これはもちろん、両方とも氷山の一角なんです。まして副反応が出ている人達も入れると相当な数がでていと。

私が現場の医者として、この数字を見て、65歳以上の人が自分の所に来てワクチン打ってくれといったら、この数字を知っていたら、やめろといいますよ。どうしても打ってくれ、打てない、何かあったら訴えられるから。このぐらいの数字なんです。危ないんです。こんなかたちのものを国も厚労省もすすめているんです。これはどういう構造できているのかなと思います。

もうひとつは、WHOなんですけれど、僕が一番驚いたんですが、WHOのサイトにいくと、アジェンダ2030というのがあるんです。予防接種アジェンダ2030というの、ワクチンを新興国やいろいろな所に広めましょうというということと同時に、そこにあるのは、2030年までに低中所得者と国と地域に500種類の新しいワクチンを導入するとあるんです。

水島 すごい数字ですね

柳澤 中所得ですから日本も入っていると思うんです。

水島 中ぐらいになっているんですかね、今。

柳澤 はい。500種類の、古いのも新しいのも、これから開発される新しいのも含めて、感染症だけでなく、がんや高血圧やいろいろなワクチンができているのを、500種類以上あるというのは、ビジネス以外にないと思うんです。もちろんWHOの背後に多くのワクチン関係、製薬会社、色々なバックについてますけれど、これを考えると、医者主導で国民を守る、何かを守るというのなら分かるん

ですけど、裏に企業がついてコントロールしているというのは、これはお金なんですよね。目の前のお金がほしいという。非常に次元の低い話だと思うんですけど、次元が低いゆえに僕は勝てると思っているんですけど。今、恐ろしいことが WHO で考えられていると。アジェンダ 2030、とんでもない話だと思っています。

井上 それはお金だけではなくて、一石三鳥になっていて、高齢者に毎年接種するということは、もう年金もいらなくなる訳です。口減らしね。現代の檜山節考ですよ。そうやって、上は間引いていくと。

去年の9月20日から始まった、IXBB タイプね。あれは6ヶ月以上の全国民に打たせると。もう爺さんの仕込みは終わったから、今度は若い子をセットすると。これが去年の9月20日から始まったオミクロンタイプのワクチンなんですね。このオミクロンタイプを打っても、出てくる抗体は武漢型しか出てこないです。オミクロンタイプの抗体は全く出ないということが、これは抗原原罪ということで完全に論文で証明されています。

村上 一回目したら終わりなんですよ。一回目したら、一つの抗体しか誘導されなくなるのが、Ige 抗体の性質、抗体の性質です。

井上 言ってみれば、初恋を、免疫学の初恋です。初恋の人だけをぱっと認識する抗体をつくる。あとは全然無感覚になる。こういうことが今、日本人の体で起こっているんです。これは村上先生が専門なので。

村上 変異が多いウイルスで、変な抗体を誘導すると、どうなるかということなんですよね。打った人の方がより重症化するんですよ。これはサーズでもマーズでも有名な現象として知られています。ADE というんです。アンチボディに依存した、感染増強です。2020年の段階で、今のコロナウイルスにはスパイクで抗体を誘導するのは、間違いだと、当時の厚労大臣等にも言ってました。しかしながらやっちゃった訳ですよ。

もうひとつ、mRNA ワクチンなんですけれども、病原体の遺伝子を細胞に入れますよね。その細胞は異物になる訳です。感染細胞なんです。そうすると免疫系でやっつけられますよね。ということは、この仕組みは、あらゆるウイルスに全部失敗するんです。だからインフルエンザでも失敗しますし、他のウイルスに広げるのは非常に間違いで、やればやるほど死んでしまうということになります。

あともうひとつ無視できないのは、**mRNA** ワクチンは免疫抑制する働きを持ってまして、普通に考えれば、遺伝子が入った細胞は免疫系でやっつけられちゃうじゃないですか。打った人は皆死んじゃう訳ですよ。ところが実際にはそれほどお亡くなりになっていないのは、変だと我々はずっと思っていたんですよ。調べてみると、免疫を抑制する働きを持っている訳ですよ。免疫を誘導しながら免疫を抑制しているから、予想したよりは死亡者が少なかったんです。ということは、始めの間は誘導した抗体が効いているんですけど、変異してしまうとこの抗体が効かなくなりますよね。で、免疫を抑制するから、打った方が感染しやすくなっちゃうんです。それが問題なんです。打てば打つほど感染するんです。

あともうひとつは、**メッセンジャーRNA** って、あつという間に破壊されると思うじゃないですか。ところが調べれば調べるほど、長持ちしているんですよ。修飾型のウリジンというやつを使っているんですよ。メチルカオリジンで、ヤマサしょうゆが作ったメチルカオリジンを使って合成して作るんです。合成された**メッセンジャーRNA** は、長持ちするんですよ。調べれば調べるほど長持ちするんです。半年後に調べると半年も存在する、1年後に調べると1年後にも存在する。ということになりますよね。スパイクタンパク質は猛毒だということが分かっていますから、猛毒の遺伝子を細胞に入れちゃうと、免疫の攻撃を受けながら、ずっと生産する訳です。

井上 細胞が死ぬまで攻撃されるんです。

村上 有毒なタンパク質の遺伝子を人に注射しているのが、今のコロナの**mRNA** ワクチンで、同じやり方でやろうとしていた話がレプリコンワクチン。増えるタイプのワクチンです。毒素の遺伝子を持った、ウイルスのような粒子が細胞から細胞に広がるということは証明されています。同じような実験で細胞1つに感染させるとあつという間に増えて、100万個位の細胞に広がるという論文はあります。ということは細胞から細胞に広がるじゃないですか。

人は免疫を持っているから、人に投与してもそのスパイクを持った粒子が免疫系でやっつけられて、広がらないという研究者はしますが、実は皆さんが持っている抗体は、オリジナル型の古い武漢型のスパイクの抗体ですから、今年の秋から打とうとしている、レプリコンワクチンはオミクロンの発展型なんです。だから従来の抗体は全く効かないので、細胞型の実験で行っていることと同じことが起きます。打った人の体内で1箇所からどんどん広がって、ウイルスのよう

な粒子が細胞から細胞に広がって、吐き出す可能性があります。製薬会社はそうならないと否定をしてほしいんですよ。ちゃんと実験をして、動物実験でもできますから、ちゃんとマウスからマウスに広がらないと証明するまでは、人に打ってはいけないと。あらゆる mRNA ワクチンは同じ性質を持っていますから、全部失敗してます。

井上 ぜひ視聴者の皆さんにお伝えしておきたいのは、経産省の補助金で、20種類のインフルエンザに対する mRNA ワクチンがすでにオンゴーイングになってます。打たせないものを製薬会社は作るはずがないんですよ。それがインフルエンザだったら、子供の頃からインフルエンザワクチンを抵抗なく打っているからいいですよと打つ人がいますから、これ、遺伝子を使うことにしていますので、そうすると村上先生がおっしゃったように、全く同じことが起こると。

村上 間違いなく失敗するんですよ。

井上 秘密裏に20種類作られているということが現実です。これが実は去年から季節外れのインフルエンザが流行っていると、メディアで煽ってましたよね。あれはアメリカで3年前にフルオアという言葉を使って、コロナとインフルエンザが同時に感染すると、コンセプトで、アッセイキットも作られていて、mRNA型のインフルエンザワクチンが作られていて失敗してるんですよ。それを来年度北半球で、ヒト試験を実装するとアナウンスを彼らはやっていたんです。その北半球とは、まさに日本なんですよ。その時期に南相馬市で mRNA 製造工場のサティアンが経産省の補助金で作られていると。次に来る Disease X のひとつの可能性は、鳥インフルエンザ型のものが世界中で煽られ続けていると。

それプラスのアルファが、はしかとかサル痘とか色々なことが言われていますが、Xだから何でもいいと。こういうものを遺伝子で打たれると全く同じことが起こると。絶対に家族や知り合いに打たせてはならないと。このメッセージをぜひブラウン管の向こうの方々ね、大事な方々に伝えて頂きたいと思います。

村上 それで我々は社会運動を始めようと思ひまして、井上先生、林先生、池田先生と一緒に新しい国民運動をスタートして、あらゆる mRNA ワクチンをストップしようという運動を始めました。全国で失敗していますから。失敗することが始めから分かっている訳ですから、そういうものを始める必要もない訳ですし、研究開発も全く必要ないということで、我々は新しい国民運動を作りまして、

広く情報発信をしていくということをしています。

水島 これは皆さんに見ていただいて、子供を守るためにもおじいちゃんおばあちゃんを守るためにもね。しかし今日は、聞くだけに恐ろしいね、ある程度は分かっていたけれど。具体的に聞くとすごいなど。

池田 レプリコンの臨床なんていうのは、2021年10月12日にもう始めているんです。mRNA ワクチン始めたのが2021年の6月に一般が始まったんですから、もう何ヶ月もしないのに1回目の治験を始めているんです、臨床。これは方向性が作られている訳ですよ。一刻も早く見抜いていくということが大事だと思うんです。パンデミック条約のこともグローバリズムのことも、今行われていることが実はいつの段階ですでに具現化して多くの皆さんの目にあたるようになったかと、少し学んでいくと、お話のしようがあるんですね。

2010年1月20日の新聞トップ、これが前半戦に村上先生がおっしゃった、新型インフルエンザの当時パンデミックされた、プランデミックの大きな記事だったんです。驚くなかれ、この当時はWHOと製薬会社がパンデミックを煽るなんて新聞が堂々とするくらいです。今、こんなこと、プランデミックのプどころかWHOのWもどこにもないですよ。それが堂々と癒着疑惑、欧州会議や調査、こんな記事が…

水島 それは朝日ですか。

池田 これは朝日新聞です。でも先のこれは東京新聞が一面トップにあげたんです。書いてあるんですよ。輸入ワクチン一本も使わずに廃棄したと。しかも、欧州でほとんど使われなかったのは、副反応がひどかったから、新型インフルエンザにかかるよりもワクチン接種した方がはるかに多く死んでいったと、この時に助けたのがドイツのボーダルク先生ということだったんです。この当時、あとから調べてみると、パンデミックを誇張したとか、WHOと製薬会社の黒い疑惑とか、堂々と出ていたんです。この時に何が悪かったかといったら、GSK グラクソ・スミスクラインのアルパンリックスという薬剤が非常にカナダで広範囲で被害が甚大だったと。その欧州の現場では余ったやつどうしようかといって、アフリカや東欧の国に売りつけようぜという話をしていたんですから。それを買いに行ったのが、何を隠そう日本なんですよ。だけどその時には終息してたんで、ワクチン打つヒトがいなかったんで、先程の記事、1126億、一本も使わず廃棄という状況になったんです。この時にはたくさん欧州では、新型ワクチン、こういったことが当時非常に多く報道され、新聞だけでなくアメリカでもテレ

ビでもやっていたんです。日本に入ってくる時には、すでに時事通信と共同通信が向こうの配信を買ってもってきてこうやって報道させるので、欧米が先行してるんです。

これに鑑みて、この時に失敗しているのが **2015** 年に今回実行委員長のゲイツとソロスが、世界中のアルジャジーラを始めとする報道を買収につぐ買収で、今、だからどこも誰もひとことも言わないんですよ。もともとこれが起こされた一番大きな要因というのは、これに象徴されています。私そう思うんです。「製薬大手、ワクチンに活路」。人のマスをだいたいこれぐらいとしますよね、製薬会社って具合の悪い人に、具合よくする薬をやるので、だいたい皆元気なので、具合の悪い人、これくらいなんです。ここにやる薬をせっせせつせとやるよりも、ハッと考えてみれば、老若男女、全体に打てる薬剤を開発して、しかも、だいたいワクチンは公費なんで、公費助成するのでまけろなんて言われたい、トップを牛耳ったら全部国民にやらせることができる。一番最初にやったのは **200** 年にゲイツがマイクロソフトを辞めて、**GAVI** という団体を作ったんです。

水島 新聞名を言ってくれますか。

池田 これは読売です。

水島 ちゃんと朝日も読売も、この時までは報道していたってことですね。

池田 できていたってことです。彼らは、この失敗について何としても情報を統制しないと、成功しないと、そこにいきついて、ゲイツとソロスは報道統制しましたんです。結局、**WHO** はどういう状況になっているかという、ビル・ゲイツは **2000** 年にマイクロソフトを譲って、ワクチンに特化したビル&メリンダ・ゲイツ財団を **2000** 年にたてて、**GAVI** アライアンスは世界中にお金もちだろうが貧乏人だろうがありとあらゆる人達に平等にワクチンを打たそうという運動を先行してやる所なんです。これ、ビル・ゲイツが作ったんです。だから **WHO** の約 **4** 分の **1** はビル・ゲイツ、資本は今、資本家のリーダーがすべて握ってすべてだから政策きかせると。だから **WHO** は聖人君子でもない、公衆衛生を本当の意味でリードする訳でもない、ただ単にトップの利益を追求する団体に成り下がったのが、これの意味なんです。これでどういうことが起こったかと言うと、日本では **2020** 年 **2** 月にダイヤモンド・プリンセス号が来て、**COVID-19** が来たとか言ってたんですが、もうすでに **2019** 年 **9** 月 **18** 日には中国で来年 **COVIT-19** が流行るぞと、どういう対応するかと中国でやっていて、しかも **1** ケ

月後、イベント 201 ニューヨークでは来年世界の要人集めて、こういうことが起こるから公共施設ではマスク、手洗い、人を交流させない、閉じ込める、そういうふうにやって下さいなんて、お触れを回してやらせた。それに何を使ったかといったら、PCR なんですよ。これが始まった 9 月 18 日に武漢の、来年は COVIT 流行るぞとやった 1 ヶ月前、8 月 7 日にはキャリー・マリス先生ですね、PCR を作った、彼が、ノーベル受賞者だというのに、自宅で肺炎で亡くなったということになっているんですよ。だいたい肺炎で亡くなる人は病院です。相当悪くないと亡くならないんだから、一気になんか。

そういう意味で PCR 検査を使って、世界中にこの仕組みを適用させて、先進国、日本、フランス、イギリスなんて、だいたい CT 値、倍掛け倍掛け 41、40~45 回転させて、本当に大したなんでもないものに陽性、陽性、陽性、陽性祭りが始まったんです。これでみんな隔離する、隔離するとどういう措置がとられたか思い出して下さい、病院に隔離される人はコロナですって言われますよ、そういう人を何もしないでおいておくと思います？ 何をするかという薬を使うんです。2021 年 5 月 19 日に大村先生の北里大学にお話伺いに行きまして、イベルメクチンのことを聞きました。イベルメクチンはメルクという会社が出しているんですけど、当時 150 円位だった。イベルメクチンと同様にあの頃出していたモルヌピラビルという一方の薬が 9 万 4 千円です。どちらを売りたいと思いますか。9 万 4 千円の方ですよ。モルヌピラビルはアメリカで副反応があまりにひどい、半分位は有害事象ですよ、それを病院に入った人達に適用させて、それでお亡くなりになったり重症化したり。だけど会えませんよね、出てくる時は骨になって出てくる訳ですよ。これで COVIT 恐ろしいですね、コロナでお亡くなりになりましたって、これの循環が、面談のクローズと、志村けんさんや岡江久美子さんもそうでしょう、そういうことが通じて、それでも死ぬ人はたりない訳ですよ。

それで厚労省は何をやりだしたかと言ったら、鹿児島でも岡山でも埼玉でも、死者の本当の死因を知らず、とにかく PCR で陽性になったらコロナ死にしてくれて、全国 47 都道府県に触れ回っていた訳ですよ。それで 2020 年に亡くなった方の数を集めても、戦後最少の超過死亡だったんですよ。もう全然死ぬ人が足りなくて、この頃には世界中の人がこの騒ぎはおかしいということで、2020 年の…。

水島 池田さんね、すごくいいこと言ってくれてるんだけど、初めて聞く人多いと思うんだけど、我々が影響受けたのは志村けんが死んだことですよ。あれは何

だか知らないけれど、病院入って、治るのかなと思ったら、死んじゃったと。親戚にも見せないで。で、骨になってね。こういうことで、皆が打たなきやいけないだと、ものすごい危ないあれが始まったんだと。

池田 あれは相当インパクトがあったと思いますよ。

水島 それなんです。顔も見せないで、だったでしょう。ということは、今言った、薬を飲ませて逆に死なせた可能性もある訳ですよ。

池田 もちろん。論文にもどれくらい亡くなったか出ています。47.何%が非常に重篤な状況、重篤な中にはもちろん死亡者も出ている訳ですよ。

井上 緊急承認されたモルヌピラビルとか、いわゆる核酸代謝薬、全部海外では承認取り消しになっています。緊急承認されたものは、例外なくものすごい薬害を起こしています。前回の新型インフルエンザで、メディアをコントロールできなかったという失敗に気づいたビル・ゲイツ達が今回やったのは、メディアを完全に掌握すると。これが YouTube バンされる基盤になっている訳でね。そういう意味では情報鎖国状態の中で、我々は PCR で視覚的な状況で煽られて飛びついていったと。非常に犯罪的なプランデミックが、すべてに貫徹して行われていると。ファウチが人類を裏切った男と林先生が要約していますけれど、まさにその和製版が武見厚労大臣ですよ。WHO から命を守る以前に、我々は武見から命を守る、岸田の棄民政策から守ると、そういうところから国民はきているというところに気がつくかどうか、これが今回の国民運動の一番大事なメッセージになると思いますよ。

水島 色々考えると、緊急事態条項だけではなく、移民政策の無原則なものとか、全部実はつながっているということですね。あと、皆さんが分かっていたのは、朝日や東京新聞や読売もそれなりにちょっと製薬会社の危険は、あの時まではそれなりにちょっと言っていたんですよ。

池田 そうです。

水島 今、確かに全然言っていないですね。テレビも言っていないですね。何か付け加えることがあったら...

池田 私は今回、これほど政治が黙って沈黙していると。原口先生はご自身で命

の危険にさらされていて、まず自分の体よりも、自分の経験を何をしなければならぬかという使命に気がついていらっしゃる方だと思うんですけど、しかし本当に例外です。700人いる国会議員が沈黙しているのは、安倍元首相がお亡くなりになったあの形が非常に脅しの意味に通じていると思うんです。彼の発言の軌跡を振り返ってみると、2020年2月にダイヤモンドプリンセスがきて、世界中で一番早く、4月10日、2ヶ月後に第三次世界大戦中だという発言までしています。その次の発言は4月17日に、WHOには問題があると。ついこの間、トランプが言ったようなことを世界中に先行して、日本としてもこのパンデミックが終息したら、WHOに対する財政出動のほどというのをチェックしていかなければならないと、そこまでの発言をしているんですよ。

それだけではなく、イベルメクチン散剤、アビガンも含めて、早期に認めていかなければならないと、2020年の初期の段階で発信していたんです。ところが退任したのが、その年の9月16日に総辞職になったんです。こういった政治の流れというのを、ただ単にテレビのニュースだけではなくて、一体なぜこういう自体に陥っているか、安倍さんが亡くなった2022年8月7日、その3日後には国務大臣のプリンケンが来て、朝の10時からの10分間、岸田さんと何を面談して言わせたか、夕刊の一面トップに何て書いてあったかといったら、岸田さんこう発言してるんですよ。

原口 池田さん、僕もしゃべっていいかな。俺ニコ生になってひとことも喋ってないんですよ（笑）

池田 どうぞ。どうもすみません（笑）

原口 どうぞどうぞ、言って。

池田 そんな訳で、そのあたりのところ、しっかりと私達が検証していきながら情報提供して、前に進んでいかなければならない。そういうところの意味では、ぜひ原口さんに先頭きって。

原口 先頭きっているんだけど、何を今、このニコニコで言わなければいけないかということですね、まずこの注射をどうやって止めるかなんです。止める為にはどうすればいいか。ニコ生ご覧の方に、ぜひ僕と井上先生の対談を拡散してほしいのと、南出市長との対談を拡散してほしいんです。あそこに具体的にどんな目があったかということが一杯載っている訳です。みんなそれを横で共有してい

ない。今度 5 類になって、任意の接種になって、新型コロナワクチンは 2 億 5 千万回分廃棄しているんですよ。廃棄するなど言った 3 日後に廃棄したんですよ。額にするとなんと 6,600 億円分。これやるんだったら、インボイス制度なんて 1,700 億円ですから。3 年分も何年分もいらぬんです。

そう考えていくと、これはもっと前から、少し科学的なことが分かる人には、インターナショナル COVID サミットを見ろって、官僚には去年の 5 月 3 日に行われた、EU 議会有志のビデオを送っているんです。それは何かというと、1965 年からワクチンが先にあって、生物兵器だと。ワクチン、生物兵器が先にあって、それでウイルスなるもの、なるものです、ウイルスではないんです。それをやってきたということを送ると、官僚の人達も初めて見ましたと。自分らも変だと思っていますと。厚労省のトップも技官もおかしいと思っている人は山ほどいるんです。山ほどいるんだけど、上がアレだから、第 7 回でもそうだけど、もうろくでもない答弁しかしないでしょう。

村上 本当にそうですね。そうなんです。

原口 パンデミック条約というけれど、これは生物化学兵器のビジネス条約です。

水島 そうだね、そういう言い方すると分かりやすい。

原口 ビジネス条約なんです。そして日本人を何にするかということ、モルモットで治験しているんですよ。これは日本人モルモット計画なんです。それをどうやって止めるかと、ニコ生を見ている皆さんに、まず目の前の、家の中でも結構けんかしているんですよ。5 回打て、6 回打て、7 回打てと。僕らみたいなのは陰謀論者だから、聞くのをやめろという人達と、いやいや打ってしまったら大変だから打つなという人とせめぎ合っているんです。でも先生らのお話や、あるいは南出市長が調べたやつを実際に見れば、どんなことが起きているか、今原因不明の病気がやたらと多いんですよ。原因不明の。僕自身でいうと、ずっとこの先生方をお願いして、がん細胞を調べていく中で、さっきおっしゃった T 細胞、免疫細胞が思いっきり傷ついていました。それで、他の人達にも起きるだろうと。自分でがん細胞をある研究所に送ったんです。SV40 プロモーターは、村上先生、井上先生に見てもらって。これは幸いじゃなかったんです。あつたらどうなっていたかということ、今だったらもう一回再発する。でも免疫力は落ちている訳だから。これをどうやって増やすかずーっとやっていかなければならないんです。でも

他人の細胞じゃできないから、自分の細胞だったからできたんです。神様が与えてくれたなと思うんですけどね。

井上 完全に医学マターではなくて政治マターなんです。どうやったら国民が気がついて、どうやったら今の棄民政策をリセットできるか。そのへんの具体的な方法をぜひ原口先生から…。

原口 池田さんがおっしゃっていたように、安倍さんが殺されたから皆がビビっているということでは、多分ないと思う。そこまでもまだ行ってない。知らない。

水島 認識がないと。

原口 認識がない。で、自分の身に降りかかったら、おかしいと。さっきの PCR だって、吉野さんが言うじゃないですか。虫菌菌があるから虫菌ですかと。PCR で何十倍にも増幅させて、それで出てきたから、じゃあコロナですかと、違うでしょうと。その原理なんですよ。

水島 がん細胞というのは、日々毎日、何百と生まれているけれども…。

村上 何千個も生まれているけれど、免疫能力があるので除かれているものが、変な mRNA ワクチンを何回も打ちちゃいますと、免疫能力が抑えられてがんになるんです。

水島 そうですよ。これは本当に基礎的なものですけど、今の問題ではそういうことですよ。原口さんの実体験の話もそうなんで。先ほどの原口さんと井上先生との対談の動画ね、あれは…。

原口 バンされたやつ。

水島 バンされたやつね、どこか YouTube とは関係ない所で、ニコニコとかうちの所とか、どこかで拡散してもらわないといけないね。

原口 バンされると思ってなかったんで、元がないんです。

水島 ないのか、そうか。それなんです。だから怖いんですよ。我々が何年も

番組やって何万本の、一切（なくなったという真似）

原口 一切ないんですよ。イベルメクチンの、大村教授と聞いて、法律をこうして作りましてと解説した動画なんです。だけど1年後位にいきなりバンされて、だから元動画がないんです。

水島 それじゃちょっと辛いねえ。井上先生のコンピュータのどこかに残ってるかも分からないですけど。

水島 また一回きちっとやっていかなきゃならない。それから、今まで聞いてくると、大雑把なことしか分からなかったことが、具体的なことを聞いていると大体分かってくるというね。日本人のモルモット絶滅計画と原口さんが言ったけれど、本当にその通りのことを今進めている。日本人の体質まで変えちゃう訳でしょう。こういう根本的なことと、もう一つは、グローバルリスト達を考えているのは、アフリカとか人口爆発現象とかある所に関しては、これを使って病だなんだという形で、人口抑制というか、人口削減とか。もう一つ言うと、生物兵器として、その国の経済や政治制度とか全部、変えることができますよね。だからゲイツ財団がやっている WHO は極めて戦略的なというかね。

井上 それが見事に成功しているんですよ。金は儲かるわ、念願だった人口削減が現実の世界中でのものすごい数亡くなっている訳です。

原口 しかも日本人というデータが取れる訳です。逆に言うと、コロナワクチンのデータだっってとっている訳でしょう。国会の法律には何て書いてあるかという、検証しろと書いてある訳です。もう3年も打っているでしょう。データがなきゃいけないんです。で、質問主意書を出すと、重症予防効果はまだ検証できてませんと。死亡、感染予防効果、できてませんと。分かっているのは、それで亡くなった人達。それか僕みたいにすごい障害を負った人達。これは分かっているんですよ。だったら止めろと、いや、やめろと。

水島 普通はそうなんだよね。人間の常識から言ったら、危ないと分かったら、ねえ。

井上 厚労省の職員も含めて、骨粗鬆症になっても、折れるまでは気が付かないと。今、そういう状況なんですよ。本当に頻回接種打たれた方は、本当に気の毒ですけど、本来の真実な人生を手繰ることは多分できないだろうと私は思

っています。何とかそういう人達をどうやって救えるかというのを、医学としてすごく重要なミッションなので、こういうことこそ厚労省が全力を挙げてね...

原口 厚労省に任せちゃだめ。もうこれは国防です。厚労省なんかにやらせていたら、100年たっても同じ所。

井上 ああ、そうですねえ。

原口 彼らから権限を取って、そのためにもリスク評価のあれがあったはずなのに、リスク評価の大臣、河野さんが2億回打って0人だと。CDCが言っていると。あれの資料を持ってこさせたんです。CDCはそんなこと言ってないんです。2億回打って、亡くなっているけれど、直接的な因果関係は今のところ証明できなかったと。2億回打って死亡者がゼロなのと、証明できなかったのとは、全然違うでしょう。まさにリスクコミュニケーションの所から間違っている。だから彼らに任せたらだめなんです。

水島 さっき村上さんがYouTubeの時言っていたように、バラバラだったのを厚労省にまとめちゃったから余計こう...

村上 言えなくなっちゃった。普通だったら4人5人亡くなったあたりから研究者が言い始める訳なんですよ。40人50人なった段階で、やめろってなるはずなんです。というのは、従来の薬害は、薬を飲んで亡くなった人は二桁になったら大体ストップしていたんですよ。今は厚労省に届けたのが二千何百人じゃないですか。それでも止めていないのはどうしてかということ、多くの研究者が何も言わないのが原因というのと、もう一つは厚労省の委員会にあるんです。

厚労省のお役人達は、全部有識者を集めた専門家の委員会がいいというから我々は承認したんだと言う訳です。問題はどうか集めるかという問題で、厚労省のイエスマンをはじめに委員長に選ぶんですよ。イエスマンの委員長が、お友達を選ぶんです。相当数、厚労省のOBがいるんです。厚労省のOBで大学の先生になっている人で、なおかつ製薬会社からお金をもらっている人が沢山いるんです。その人達に話し合いをさせて、Zoomで発信させる訳です。そうすると皆さんこれは重大な懸念はありませんという話を今でも言っている訳です。あの先生達はスパイクは猛毒だと分かっているけど、重大な懸念はないと言う訳です。

原口 刑法で、お金もらって委員の人達もみなし公務員ですから、僕らもお金も

らって政策を歪めたらそこでもう逮捕です。ところが厚労省は、変な規約を作っていて、5万円以下とか、500万円以下とか、それは刑法を厚労省の規約で塗り替えることができるのかと。そのこと自体がもう間違っている。一人の方が複数の、反応部会とか検証部会とか、ワクチンにしてもアクセルの方とブレーキの方と検証の方と、3つの部会に入っておられる方もいるんです。

池田 元々利益相反もいいところで、コロナを評価する所でファイザーの元臨床開発統括部長の坂本登さんもおられるし、子供達にワクチン打たせるとなったら東京都は教育委員に宮原京子というファイザーの執行役員入れてます。東京都が入れたら、その後、数ヶ月後に文科省に入れてるんです。子供達にワクチン打つのになぜファイザーの執行役員が就任しなければならないのか。そのへんの利益相反がズブズブですよ。ついこの間も和田さんが討論に出演されましたよね。会議の中でファイザーのことをヨイショヨイショしながら何をやるかといったら、今度ファイザーの部長になってるじゃないですか。

村上 ファイザーに就職してるんです。

池田 こんな利益相反、あり得ない。

井上 アメリカの典型で、回転ドアというんですね。混ぜたら元へ帰っていくという。これが日本の厚労省もやっていることです。

村上 FDA と製薬会社は後ろで回転ドアでつながっているんです。

池田 実はこれなんです。どういうふうになっているかと言ったら、結局、薬剤を開発する所と認可する所が同じ所がやっているんですよ。ファイザーで作ってFDAに就職してハンコ押して、またファイザーに戻ってくるんです。その証拠にオーストラリアの特許庁、96%が製薬会社です。イギリスもそう、MHRA86%、日本のPMDAも85%が製薬会社ですから。この人がこんな薬害にあってましたとハンコ押すのは、作った人の所から派遣されたような人がハンコ押すような形になっている。これが世界中でいわれる回転ドアというものです。こういうことを完璧に織りなして、こういうこともやるんですよ。ファイザーの新型コロナワクチンの第3相治験。打った人、打たなかった人、これで有効率98%って、発症しなかったのが98%でしょということなのに、ここをいい加減な検証していきながら95%有効率って、こういうインチキなことを厚労省は平気でぬけぬけとやっているんです。

村上 ここでもうひとつ重要なことがあります、ワクチンを受けた人はワクチンを受けたことで、肺炎以外の病気で死んだ人数も山のようにいるんです。その人達も入れると、接種した集団の方が死亡者が多いんです。

池田 非常に恐ろしいことが本当に...

井上 これがワクチンだけのことを問題にしていますけれど、日本の医療構造そのものが同じようになっている訳です。例えば専門学会、高血圧では10基準値を下げると一夜にして1千万人、高血圧患者が増える訳です。日本の成人は8千万人位、世界の人口80億ですから、%でいったら1%位、その民族が、高血圧の薬の6割を飲んでるんです。

水島 130 超えたら高血圧という感じですよ。

井上 私が卒業した頃は、年齢プラス90と。年取ったら動脈硬化が来るから、血圧を上げていかないと脳が栄養失調になるから。年齢によって正常値が変わるのが医学的な定義なんです。それを下げただけで1千万人、ぽんと患者さんが増えるだけではなくて。今120を目標としているんですよ。みんな若者のあれだったら、高齢者認知症になってしまう。

村上 思考力がなくなるのみならず、免疫能力が落ちるんです。

井上 寝たきり世界一は降圧剤が作っているととっても過言ではないんです。

原口 がんの治療もそうですよね。極端に例のアレに偏ってますよ。

井上 一番最新の問題で、今月、血圧の正常値が160に上げられたんですよ。130を目指していたのが。下げろ下げると10下げると何千万も儲かって、降圧剤だけで数兆円毎年持っていかれている訳だけど、それを美味しい思いをしてきたのに、なぜ160と平均値を上げたのか、これはコロナのスパイクでACE2と反応すると血圧が上がるからなんですよ。だから今、血圧が上がっている人がどんどん増えているんです。

原口 そうでしょうね。

井上 3年前のアメリカの腎臓学会で問題にされていて、やがてこれから透析に入る人が激増すると。これが実は紅麴の冤罪につながっているんです。そのように、厚労省主導型で犯罪的なことをやっている、そのトップが武見さんなんです。

原口 一回潰さないで。それで、昔は軍産複合体といったけれど、今は医産複合体の方がきるかに大きくて、今、国会で裏金問題やっていますけれど、あの献金を見てみると海外の医薬メーカーのやつがはるかに大きいです。アメリカでも物言わなくなっている人達は皆それです。恐怖で言わなくなっているというより、金でがんじがらめで。国会の議員会館にいますよ、その国の医薬品メーカーのატツシェみたいな人が廊下でずっと回っているんです。

池田 武器が変わっているということに国民が気がつかないやだめです。

井上 今の武器は情報と医薬品です。

村上 情報と医療、医薬品なんです。

池田 氷山の一部といわれる、死亡者がこんなに出ている中でも、厚労省は99%は評価不能なものをまだ打たせようという異常さを、どこでもいいので、ちょっとでも報道してくれると、驚くと思うんです。逆に事実をいかに公表していくかということ、どうやったら今の状態を広く知らしめていって、このワクチンから身を守っていくという状態にさせるかということ、視聴者の皆さんに基礎、基本に立ち戻って、声をあげていってもらおう。否定されようが何されようが、言っただけで言いまくる、そのうちに分かる人は必ず出てきますから。そういう意味でも、今月31日に情報共有を皆さんとしていくきっかけになると思います。

原口 日本だけ蝸壺の中なんです。アストロゼネカはヨーロッパでは取り消された訳です。そんなの知らないんです。ウクライナと全く同じ。

池田 その通りですよ。

原口 昨日、外交部会をやって、ウクライナ負けるの？と今頃言っている人がいる。

池田 テレビですよ。

原口 テレビで何とか大学の何とか教授とかがしょっちゅう出てくるじゃないですか。

水島 防衛研究所まで出てくるからね。

原口 全く嘘ばかり言っていると僕は思うんですけど、あれを見ている人は、あれ？ウクライナって負けてるんですか？と。良くないみたいですよと言うと、ええーっていう話になってくる。

井上 情報鎖国の真っ只中に国民は置かれている。

原口 どうすればいいかと。

水島 読売や東京や朝日がやっていたのが、そこで転換している訳ですよ。最後の読売の報道は10年位前でしたっけ？

池田 そうです。2010年8月の報道です。

原口 むしろ逆にその新聞とか、ファクトチェックで、こちらに攻撃にくるんです。

池田 今はね。

原口 今はそうなんです。こっちを攻撃にくる。

水島 陰謀論で皆を不安に煽り立てると。

原口 ディープステートとか使っていると。アメリカだと普通に使っている。

池田 原口先生、大きく報道されてましたね。

原口 そうそう。僕は、ディープステート、陰謀論者だって。アメリカのMAGAの上院議員に言ったら？って。

水島 我々が問題に直面しているのは、ある意味、裁判でいったら殺人罪じゃないですか。計画殺人ですよ。

原口 村上先生がおっしゃったんです。これを指摘しましたからねと。第 7 回の WCH の議連で、この後貴方がたがやったことは罪に問われますよと。

村上 有毒なスパイクタンパク質を打っているということは 100%明らかですと言ったんです。mRNA ワクチンで注射している遺伝子は有毒なものです。スパイクタンパク質を注射していることを申し上げたので、この先一人でも死んだら厚労省は犯罪的ですと。

水島 これは毒殺事件ですよ。

池田 その通りですよ。言ってやってよ。生ぬるいことやってんだから。

水島 ただ、メディアの罪も本当に大きいね。原口さんね、議員として先頭にたって闘ってくれているんだけど、仲間というか、原口さんが 30 人位いればもっとマシだろうと思うけれど、はっきり言ってあまり目立たないでしょう。これはやっぱり皆言えないのかな、表立ってこういうことを。

原口 この間。薬害エイズで NHK がやった翌日が WCH の議連だったんですけど、そこで川田龍平さんが自分自身が薬害にあってますから、ああいう人達は増えてきましたね。僕みたいに議員だから公表できた人は多くないけれど、しかし自分の周りで起きている訳ですよ。だから後ろで支えてくれる人間は多いです。

水島 なるほどね。今の所は戦争状態でいうと、少数派になっているけれど、皆さん精鋭ですよ。

池田 原口先生に一回お伺いしたいと思ったんですが、こんなに右から左まで政党がいくつかある中で、先生以外は全員押し黙っている状態ですよ。なぜかと考えると、中選挙区制から小選挙区制になって、最大勢力を誇る自民党の中でも、政策を切磋琢磨するという状況が全くなくなってきましたよね。2006 年に国が政党の寄付を、今まで一切だめだったのに、外資に解禁しているんですよ。あのあたりから上層部にあちこち入っているんじゃないかと思うんです。

原口 おっしゃる通りです。パーティ券という形で 20 万円までという形で相当数入っていると思う。それと、何でこれだけかというのは、心理戦に負けている人が多い訳ですよ。うちでも去年 6 月 13 日、決算行政監視委員会で 30 分時間

もらって質問したけれど、5分しかするなど。あの時も即総選挙かも分からない、僕の質問が最後かも分からないので、お前が陰謀論みたいなことを言うんだったら、質問自体をすり替える、バッテリーを替えると言われた。それで5分の間であれをやったんです。

池田 素晴らしいですね。

原口 それで南出市長のあれもだし、井上先生、村上先生のもだし、村上先生に1問しか出せないかも分からないから、どれ出せばいいですかと先生にメッセージした。そんな状況だったんです。でも、あれから1年たってがらっと変わりました。あの時はあんなふうに言って悪かったと。

池田 まだ善良ですよ。どっかの党とは言いませんけれど、公認取り消しだぞと言われるんですよ。除名されるとかね。多分。

水島 そりゃそうですね。

原口 自分らもそれになった訳ですから。僕を邪魔した人達も、自分がおかしくなったんですよ。

水島 それが段々分かればいいんだけど、それがなかなかね。

池田 遅々として。

井上 国民がものすごい数、不具合になっている訳ですよ。街歩いている人も杖ついている人、いっぱいいますよ。

池田 若い人でも車椅子とか。

井上 4年前、こんな風景なかったですよ。気がつかないというのは異常です。劣化しているんですけど、気がつくまでこうやって、しつこく言い続けると。

原口 原因不明で、たらい回しされているでしょう。がんの治療で柳澤先生は僕に教えてくれたじゃないですか。いっぱい選択肢があるということも国民に知らせなきゃいけないですよ。がんの治療というと抗がん剤だけだと。僕今ここに(右脇あたり示す)ポットというのを入れてるんです。抗がん剤は毒だからよ

そこに漏れるといけないから、ここに注射の針をぶすっと刺して。でもこれ今度取るんですよ。

池田 取って下さい。

原口 早く取らなきゃいけないんだけど。でも、これしかないと思っっているんです。

池田 その通りですね。そう習わされてきましたから。

井上 それは専門医制度のアキレス腱なんですよ。

池田 そう思うんですよ、素人なんだから。井上先生に言われると、ああそうなんですかとね。

原口 別の先生が言ってくれたから。柳澤先生が、それもあるけどこっちもあるよと言っていたから、食事療法をやったんです。

池田 そういう意味では、導かれている面があるんじゃないですか。使命というか。

原口 神様がえらいことさせてくれる訳ですね。

水島 それはあると思いますよ。別に信仰ではないけれど。はっきり言ってね、人の為に生きている人は長生きします。

池田 その通りです、本当にその通りです。

水島 まだ死んじゃいけないということですよ。

池田 水島社長が先ほど、葬儀場のことをご心配なさってましたね。もう驚くようにセットされているんですよ。東京 23 区の火葬の 7 割は東洋博善という民間会社がもっているんですよ。その親会社は 100% 広濟堂ホールディングスという、羅怡文という中国資本です。東京の火葬場は中国が握っていると。しかも 30 数年前に来た留学生が今もう牛耳っている。東京の火葬場をです。

水島 あれは公共なものだと思っていたら大間違いでね。値段も昔より 2 倍近く上がっている。とんでもないですよ。だからなかなか入りにくくなるとかね。生きてることから死ぬことまで全部ね...

池田 ゆりかごから墓場まで。

水島 そういうことですよ。

池田 生まれて即、乳幼児に 5 回も 6 回も同時接種が進み、恐ろしい時代になってます。44 回やるんですよ。

水島 今、我々のチャンネルでもソーラーパネルの問題をずっと取り上げてやっていますけれど、少なくとも基本的に日本の森を切って、長谷川岳という馬鹿な国会議員が北海道にいましてね、知床の森を切ってソーラーパネルを置きましたと自慢してるんだよ。基本的な人間の在り方を否定することを、今、自然なナチュラルな姿を変えて、日本を変えようとしている。

池田 熊本もそうですね。

水島 熊本もそうです。

原口 熊本ひどいよー。台湾で使えないようなものを日本に持ってきて、1兆2千億円入れて、台湾企業だから中国と敵対しているだろうと、馬鹿抜かせと。後は浙江財閥で、浙江省ってどこにあるの？台湾にあるかって。

水島 戦前からつながっている浙江財閥というのはね、アメリカの資本ともつながっているんだけど。そういうようなことを含めて、日本があまりにも無防備というか...

池田 お金だけで済めばいいんですけど、白川流域というのは 100 万世帯が地下水汲み上げてずっと生活してきている、そこに今度、PFAS の問題が起こってくるんです。九州と北海道もそうです。半導体みたいに繊細なものを扱う所は全部空港の近く。恐ろしいことが同時に並行して行われている。今だけ、俺だけ、お金だけですよ。

水島 今の TSMC の問題も地下水をものすごく使うじゃないですか。台湾から

こっちに来たというのも、その理由もあるというね。水の枯渇とか。あと、土壌汚染とか起こるといふね。それも全く指摘しないし、TSMC 自体が作る製品自体は日本の半導体産業のためのものじゃないですよ。世界にやるための、全然日本のためじゃない。

原口 日本企業に渡せという契約書がないんですもの。日本は作務員天国過ぎますよ。

池田 本当。脇が甘すぎる。

原口 政府に刑法 93 条、私戦予備及び陰謀罪というのがあるんです。これは何かというと、外国に対して私的に戦闘行為をする目的でその予備または陰謀したものは 3 月以上 5 年以下の禁錮に処するという。禁錮刑なんです。ただし自首したものはその刑を...。日本でもウクライナに兵隊さんで行けと言っていたのがあるでしょう。まさにそういうのを野放しにして、毎日新聞だったかな、なんと 70 人が志願して、うち 50 人が元自衛官だったらしい。

池田 かわいそうに。

水島 そうですよ。彼らはね、非常に罪が思いと持っているのは、ウクライナの問題でいうと、櫻井よしこさんが「ウクライナ負けさせる訳にはいかない、どうするんだ」と。

池田 どうしちゃったんでしょうね、あの方。

水島 どうしちゃったんでしょうって、元々そういう奴なんです。

池田 そうなんですか。全然知らなかった私。嫌だわ。

水島 普通の真当に保守のことを言っている人かなと皆さんは思っていたと思うけれど、そういう所で反グローバリズム、反パンデミック合意の流れから、彼らは正体を表し始めている。このことなんか全然言わないでしょう。本当は一番命に関わる問題だから言わなきゃいけないのに。先頭にたつてこんなやめな言わなきゃいけないと言わなきゃいけない。

池田 ここは保守ですよ、日本を守る。

水島 今回の問題は右とか左とか超えて、人の命を守るとか、それぞれの人生を大切にするとか、幸せになるべく生きるようにするとか、当たり前の話、やり方は色々と方法論は違っても、その最少の原則を日本の国が潰そうとしていると。恐ろしい話です。とにかく皆でこれをぶっ潰さないといけないということなんですけれど。

井上 まさに選挙しかないんですよ。国民の持っている 1 票の力、今ほど武器として使える時期はないと思うんです。そういう国民運動をぜひ政治主導でぜひ先生にやっていただきたいと思います。

水島 共産党から極右までやっても、この問題で賛成しなきゃいけないですね。誰でもこの流れだけでもいいから、1つの流れを作って多数派閉めればいいんですよ。原口さんは立憲民主党になっているけれど、そういう立場だって我々と一緒にやれるし、本当に一番先頭にたってやれる方ですよ。それはなぜかと言ったら、日本と日本国民、それぞれの人生を大切にしたいという思いからやっている訳ですから。そこで一致して変えていかなければいけない。

政治だけでいうと、小選挙区制というのはどっちかなんですよ。どっちかといつても、残念ながら、原口さんは別として、野党と与党と全然どちらも、これはだめなんですよ。ということは、国民のこういう流れが、第三勢力として、ある程度多数派とらなければならない。1 議席 2 議席じゃだめだから。そういう潮流のね、昔でいうと、何とか会とかあったじゃないですか、協議会でもいいから、今回のこれでいうと、メッセンジャーワークチンを止めさせる国民連合でもいいから、国民連合という形で、共産党どもいいし、まあ嫌いだけど、立憲民主党も国民民主党も自民党も公明党も、賛成するやつは個人で参加して立候補してもらう、そのかわりこれだけは絶対に課題として実現させる、厚労省解体する、WHO 脱退すると、そういう命を守るということだけで 1 つ作る必要があると思うんでね。

その後のやり方は社会主義とか新自由主義とか色々あるけれど、私はそこだと思っているんでね。細かいことはともかく 31 日に集まってもらって、その後も続きますからね、国民運動として。

井上 全国各地でやりまくと。自分達がそれを契機に勉強して、何が起きているかと。やはり国民運動というのは教育ですよ。きちっとした正しい情報を自

分から学びに行くという姿勢がなければ、これは完全に間引かれてしまいますね。

池田 8月31日にも広島でやることが決まりました。原爆が落とされたその地が立ち上がらなければということ。

水島 うちも7月6日に集会やります。岸田さんは皆反対しているのに、下手したらやるかも分からないという噂がある。

原口 解散やるでしょうね。

水島 本当に皆反対しているんですよ。負けるんですよ、負けてもてめえはやりたいたいというね。

いい機会なんですよ。皆でこういう声を、与党野党とごちゃごちゃ言ってる場合じゃないこの声を、反グローバリズムという、まず日本を大事にする、国民を大事にする、命を大事にするという、ひとつの流れをみんなで作っていくという。

うちで北海道で集会やったら170名来たという。今まで街宣でやって20.30人しかいなかったのがね。イデオロギー以前に、党派をなるべく出すのを止めて、反グローバリズムと反パンデミック合意をやる北海道の会という名前にしたんですよ。色々な団体がそこに参加するというね。すると、ここはみんな心配しているから、実感があるんですよ。

池田 政治と生活が直結して立ち上がっていかなければならない。主権者は自分なんだということに皆さん気がつきだしたんですよ。

原口 岸田さんは多分、解散すると思うから、280の総選挙区を色分けするんですよ。この問題に全く無関心な議員かと、あるいは積極的にやっている議員かと。289小選挙区ありますから。そこで一人ずつ出ている訳ですね。あるいは複数出ているわけで。すると、日野市のような、池田さんを除名したような人はまずダメですね。そうやっていくと無茶苦茶大きくなってこになるんですよ。

水島 これは本当にリトマス試験紙だと思います。国民目線で政治をやるかどうかのね。原口さんが言った案は特に、国民に判断基準を作ってあげるというね。これは皆さん拡散して下さいね。まだまだ話したいことがおありでしょうけれど

ど、時間も迫ってきましたので、皆さん、ひとことずつ。

井上 ぜひ5月31日日比谷野公園に家族連れで結集して下さい。恐らく皆さんがたの家族が生き延びられるかどうかの最後のチャンスになると思います。仕事をうっちゃってでも結集して意味のある運動です。ぜひ皆さんの声を厚労省から国会へ届けていただきたいと思います。

水島 来てくれれば、まだ日本にも希望があるんだぞというね、前へ進む道がまだあるんだと、色々と苦しい状況ですけど、家族で来てくれれば、感じてもらえるとと思いますね。子供にもいい教育になりますよ。

柳澤 武見厚労大臣は僕の同級生なんです。しょうもない奴ですけど。やはりグローバリズムで一番怖いのは順な羊が賢い羊になるということなんです。国民の知らないを知っているに変える、こういう意味では5月31日、集会デモというのは大きい意味をなしてます。聞いていただいている方、声をかけながら集まっていたかと。それが国民に伝える一番の手だと思っています。

村上 私はいかに情報を広めるかということだと思っんです。我々が動画を出すと70万人位が聞いてくれるんですけど、問題はその外なんです。どうやって一般の人達に mRNA ワクチンは危険で失敗したものであるかと、どうやって広めていくかが重要だと思います。そういう意味では印刷物を大量に用意して日本中にばらまくということをやろうとしてまして。井上先生と一緒にパンフレットを作ってます。それを日本中にばらまく予定です。

水島 うちも31日までに何ができるかと思ってるんだけど、今日お話いただいたことを文字起こしして、ここにアクセスしたらそれが読めますというのを、皆さんに無料で公開していこうと。それをまた友達に知らせてくれということをやってみたいと思います。急いでやろうと思います。

村上 いいですね。よろしくお願ひします。

池田 私達人間というのは、例外なく生きてるものの命を食ろうて、今日まで、こんなに大きく楽しくさせていただけてきていると思います。そういった私達のために亡き者になった色々と動物もそうですし、植物もそうですし、色々な生き物の魂をいただいている私達は、今生きていることに必ずや意味があると思っんです。意味もしっかりと自覚して生きながら、そして広げながら、次の命、

先送り、私達の後から出てきている命に対して、どういうふうに私達が生きることの意味、今私達がここにいるということを伝えていくということが私達にとって最も大事な使命だと思います。生きることには使命があるので、ぜひ多くの方がその使命に気がつくように、広げていきたい。本当にそれだけを皆さんに訴えさせていたいただきたいと思います。

水島 はい、ありがとうございます。原口さんお願いします。

原口 僕はやはり強く立ち向かいましょうということを最後に申し上げたいですね。強く立ち向かった結果は必ず出てます。この間4月13日のデモ、これは世界を動かしました。それからこの番組を中心にパンデミックから政府行動計画、たったの2週間、卑怯千万なんですよ、連休中に。たったの2週間のパブリックコメントないんです。だけど皆さんがやっていただいたおかげで史上最大の19万と、結果が出ているわけです。1時間前に紹介したのに、1万人以上が拡散している。皆が拡散する、これは以外とできているんです。それも1つだし。情報を共有する、共有することによって僕らは強くなる。行動することによって、壁がなくなっていく。それを実感してほしいと思います。チャンネル桜の番組、沢山のスポンサーがくるように親戚に言っておきます。

水島 ありがとうございます。

一同 頑張ってください。

水島 大企業からは全くないというね。ありがとうございます。

原口 誇りですね。

水島 私も最後にひとこと。縄文時代、疫病というか、何度も流行って、30万人位まで減ったそうです。それまで1万数千年、ほとんど闘いが無い、栗林の遺跡をみると、栗林を自分達で植えて皆で争いなく生きてきたという。そういう報告が出ています。縄文時代の1万数千年というのは、エジプトや黄河やメソポタミアやインダスは5.6千年以内に滅びているのに、1万数千年のびたと。弥生の人達が来て、合わさって日本民族になったといわれていますけれど、疫病の中でも30数万人、大体15万人ずつの男女が、日本列島からほとんど出てないですよ。もちろん移民で出た方もいろいろ大陸や半島やロシアから来る人はいましたけれど、ということは私達は30数万人の末裔だと。大事な遺伝子をもつ

てきたのを変えようとしている奴ら、本当に許せない。

縄文時代から守ってきた日本人の遺伝子をこうした人口的な形に変えようとする、許してはいけないなど改めて思いました。縄文時代、平和な時代でした。そういう時代を私達は自分達で作っていかねばいけないと思います。今日は本当にありがとうございました。

終わり